

教育学部・教育学研究科授業評価報告書

2007 年度

京都大学大学院教育学研究科
部局自己点検・評価委員会



■はじめに

川崎良孝（大学院教育学研究科研究科長）

今回で3回目の学生による授業アンケートの結果の報告書です。同じアンケートの質問で前々回、前回、そして今回と回を重ねることで見えてくることの厚みが増えますとともに、見方自体も変わってきます。2つの情報は1つの情報より優れているのは情報学の常識ですが、それは単に情報の量が増えるからだけではなく、2つの情報によってそれぞれの情報を比較し、その比較の中から新たな関係を読み取ることができるからです。

これまでは演習とゼミナール形式の授業を調査していたのですが、今回は、はじめて講義形式の授業のアンケートを実施しました。演習とゼミナール形式の授業は、どちらかといえば大学院生が中心の授業が多いのですが、今回の講義形式の授業は学部生が中心の授業です。ですから出席者も院生よりも学部生の占める割合が圧倒的に多いのです。それだけではありません。教育学研究科・教育学部が提供している講義形式の概論のいくつかは、教員免許・社会教育主事・司書資格などと結びついていますので、教育学部以外の学生も多数受講しています。そのため今回のアンケートの結果からこれまでとは異なる側面を理解することができます。その意味でも今回のアンケートの意味は大きいといえるでしょう。結果はこれまでと同様、授業に対して大変高い評価を得ることができました。

本研究科は、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（平成17-18年度）「理論・実践融合型による教育学の研究者養成」、21世紀COE（文学研究科拠点：平成14-18年度）「心の働きの総合的研究教育拠点」につづいて、19年度から特別教育研究経費（教育改革：平成19-23年度）「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」、そしてグローバルCOEプログラム（教育学研究科拠点：平成19-23年度）「心が活きる教育のための国際的拠点」、さらに大学院教育改革支援プログラム（大学院GP：平成19-21年度）「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成（京大型臨床の知創出プログラム）」と、さまざまな外部資金の導入によって、学部生・大学院生の教育の質の向上を高める研究・教育プロジェクトを進めてきました。これからもこのようなプロジェクトを強力に推進していくなかで、さらに学生・大学院生のニーズに配慮を払いつつ、学力と研究能力の向上を図っていきたいと考えています。

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

1875

■ はじめに	i
■ 1. 学生による授業評価について	
1.1 教育学部・教育学研究科の授業評価の現状と今回の調査	1
1.2 何のための授業評価か	2
1.3 何を評価するか・何を目的とするか	2
■ 2. 授業評価の内容と実施方法	
2.1 「学生による授業アンケート」の構造	5
2.2 実施した授業科目	5
2.3 実施した対象者	6
2.4 実施した日程	6
2.5 具体的な実施手順	6
■ 3. 「学生による授業アンケート」の結果と分析	
3.1 作成と分析担当の区分	7
3.2 第1部の結果と分析（数量分析）	7
3.3 第2部の結果と分析（質的分析）	23
3.4 第3部について	34
3.5 まとめ	34
■ 4. 「学生による授業アンケート」の結果を受けて	
4.1 「学生による授業アンケート」の問題点と改善の方向	36
4.2 評価結果のまとめ方と公表の仕方	36
4.3 報告書の利用法と評価	37
■ 資料「学生による授業アンケート」質問・回答用紙	
■ 編集後記	

INDEX

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

■ 1. 学生による授業評価について

§ 1.1 教育学部・教育学研究科の授業評価の現状と今回の調査

本報告書は、昨年度につづき3回目の学生による授業アンケート調査結果の報告書である。前回のアンケートでは、演習・ゼミナール形式の授業を対象として調査し、のべ286部の回答用紙が回収された。ただ前回は回収の仕方に不備があり正確な回収率を出すことができなかった（前々回の回収率は57.9%）。結果は、授業に対して「満足している」が87.1%、「得たものがある」が95.8%、「役に立った」が91.9%で、前々回の結果がそれぞれ80.5%、93.1%、87.5%であるところから、いずれの項目においても前々回の結果を上回っていた。また記述方式の回答においても学生・院生の授業への真面目な取り組み方が伝わる印象的なものとなった。アンケートに回答し提出した人の学習意欲と満足度は回答しなかった人に比べ高いだろうと推測されるが、このことを考慮しても、本学部・研究科の授業にたいする学生・院生の評価は大変に高ものであったといえるだろう。

この学生による授業アンケートの結果は、「教育学研究科・教育学部授業評価報告書2006」としてまとめられ、本研究科の教員ならびに関連する自己点検・自己評価の担当者・研究者に配布された。また個別のアンケートの結果は、それぞれの授業担当者にフィードバックされ、授業改善のための資料となっている。さらにこの報告書をもとに本研究科の教員に対してFDをおこない、改めて授業改善への意識を高めた。そして、この報告書の全内容は、学生や学外の人にも読めるように教育学研究科のホームページ <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/> に掲載されている。

2007年3月、本学部・研究科は6名からなる外部評価委員会の外部評価を受けた。その評価の対象の一つがこの学生による授業アンケートであった。本学部・研究科では、「評価の哲学」を探究し、独自の評価（方法）を構築しようとする意図から、学生が主体的に取り組む授業評価、オリジナルな手法による授業評価を行ってきたが、こうした取り組みに対して多くの委員から高い評価を受けた。しかし、前回の報告書でも自ら指摘しておいたとおり、やはり回収率の低さが問題点として指摘された（詳細は「外部評価報告書」参照、研究科のホームページにも掲載されている）。そのため今回の調査では、この指摘を受けて、質問の内容は変えずマークシート形式の回答用紙だけを別にすることによって回収率を高める工夫をした。

前回までの2回にわたる調査が演習・ゼミナール形式の授業を対象としていたのに対して、今回の調査では講義形式の授業を対象とした。しかし、基本的なアンケートの内容に変化はない。同じ様式のアンケートで調査することで、前の2回の調査結果と比較することが可能になる。ただ今回の調査からは先にも述べたように、アンケートの第1部のマークシート式の回答と、第2部・第3部の記述式の回答の回答用紙を、それぞれ回答用紙Aと回答用紙Bとして2種類を別々にし、第1部の回答に関してはその授業の場で回答してもらい100%回収することを目指した（結果は97%）。私たちは一方でできうるかぎり広汎に学生の回答

を回収しそこから授業への満足度を知りたいと同時に、できうるかぎり記述による生の声を知りたいと考えたからである。以下ではまずこのアンケートの基本的なコンセプトについて述べておこう。

(今回の授業アンケートは、回答用紙を A と B に分けたほかは、昨年と同じ様式のものであるため、以下の「§1.2 何のための授業評価か」「§1.3 何を評価するか・何を目的とするか」「§2.1 『学生による授業アンケート』の構造」は昨年とほぼ同じ内容である。昨年の報告書を読まれた方は、「§2.2 実施した授業科目」から読み始めればよいだろう。)

§1.2 何のための授業評価か

一般に学生による授業評価は、授業の改善を目的としてなされるものである。また同時に、授業評価は、学生にとっても授業を振り返ることで自身の体験や経験への自覚が深まることが指摘されてきた。この場合、授業内容に関する認識の反省と、その授業を受けることでの自己の変化についての反省の2つを意味していた。ところで、本学部・研究科の学問の研究対象は「教育」であり、このことから本学部・研究科が授業評価をするとき、これらの目的とは別に他の学部・研究科とは異なる目的が加わることになる。

他の学部・研究科においては、数学や経済学がそうであるように、授業評価は達成すべき教育の目標とは外的な関係にあり、教員にとっても学生にとっても授業評価は授業内容とは直接に関係がない。それに対して、「教育」そのものが授業内容を構成する本学部・研究科においては、この関係は内的であり自己言及的な関係にある。命題的にいえば、私たちは教育について教育している。私たちは学生の教育にたいする反省の力・考察の力を教育することを目的としている。学生が授業のなかで、教育とは何か、授業とは何か、知の伝達とは何か、さらには評価の技術、評価の心理学的基盤、評価の歴史、評価の社会的機能・国際比較、評価という制度といったことを、さまざまな学問的手法によって捉え直すことが目指されている。

このことを自覚するとき、私たちが実施しようとする授業評価に、この本学部・研究科の授業における特殊な関係が構造化される必要があると考えた。つまり単に授業評価をするだけでなく、同時に学生に教育・授業・評価とは何かを反省させ、学生の評価の力を養成することもまた授業評価の目的となる。そしてそのように養成された学生の評価力によって評価されることで、翻って教員自身の教育についての理論と実践のあり方が再形成されることになる。さらに、授業評価は授業を問うので終わらず、また授業のなかで改めてこのような授業評価とは何かそれぞれの問題意識から問われることになるだろう。このような循環的な視点をもつことではじめて本学部・研究科の授業評価となるだろう。

§1.3 何を評価するか・何を目的とするか

部局自己点検・評価委員会は、以上のような本学部・研究科の研究と教育の特質を踏まえた上で、京都大学の授業評価において使用された調査票や、その他の既成の授業評価調査票

などを収集し比較検討しながら、改めて本学部・研究科の授業評価において何を問うべきかについて慎重に議論した。

小学校・中学校・高校といった学校の授業においては、各教科において到達すべき達成目標が決まっており、教科書を手がかりに授業を段階づけて進めることができる。それに対して、本学部・研究科の授業の多くは、小・中・高の学校の授業とは異なり、到達すべき達成目標を予め決めることができないものに関わっている。もちろん学問研究に不可欠な知識の伝達は、本学部・研究科のどの授業のなかにもあるし、また段階づけられた知識や技術の積み重ねが重視される授業もある。これまでの学説や歴史を正確に理解させることは授業において重要な課題である。しかし、このような側面は授業の一部をなすものでしかない。人間の教育を探究する本学部・研究科の理念から見ると、このような知識を十分に身につけるとともに、その知識をもとに一人ひとりの学生が、人間についての謎に出会うことや、教育ということの事象の深さに気づくこと、人と向かい合う自己のあり方への反省をもつこと、あるいは歴史的・社会的・制度的文脈のなかで具体的に問題を発見し捉えることなどが授業では重要である。

このように考えるとき、本学部・研究科では既成の授業評価調査票で問われるような評価の問いは妥当しない。例えば、「シラバス通りに授業をしたか」などの評価は2次的であり、むしろシラバスを逸脱してでも授業の流れのなかで、学生の自覚や反省が深まることの方が重要である。「わかりやすい授業であったか」は、「わかる」ということが学生の既存の知識体系に無理なく収まるようなことを意味しているとするなら、やはり2次的なことである。学生の既存の枠組みを揺さぶり、新たな疑問や謎を感じさせ、自ら考えたり調べたりするようになる授業が「わかりやすい」授業などではありえないだろう。

それではどのような設問をすべきだろうか。もっと客観的な設問を設定すべきだろうか。評価を客観的なものに近づけようとする、「授業の開始と終了は時間通りでしたか」のように、たしかに客観的ではあるがほとんど無意味ともいうべき設問となる。むしろ本学部・研究科の授業の目的が先に述べたようものであるなら、評価はどこまでも主観的なものであることを自覚して設問を設定する方がよいと考えた。

以上のような授業観・評価観に立つとき、学生自身が自分にとってその授業に「満足しているか」、その授業から「得たものがあるか」、その授業は「役に立ったか」と反省することは、シンプルではあるが重要だと考えた。私たちはこの結果から授業が学生にとってどのように受け止められていることを知ることができる。しかし、私たちは受講した学生の満足度が高いからといってその授業が優れていたことを示すものとは考えない。また反対に満足度が低いからといってその授業が問題があるとも考えない。ここでは満足の質や理由がわからないからだ。それでもこのような設問は教員によってそれぞれの授業観と照らし合わせて結果を解釈し、自分の授業を捉え直すためには有益であるにちがいない。今回の評価の対象とする授業は、これまでの演習・ゼミナール形式の授業ではなく講義形式の授業ではあるが、その講義において学生の授業への自己の向上への期待・その達成感・心がけていることなど

を自己評価してもらおうと考えた。当然このような設問から学生は教員が授業の構造をどのように捉えているのか、学生に対してどのような授業態度を期待しているのか、などを読み取るはずであり、またそのことを期待もしている。

そこで「学生による授業アンケート」は、次の3つのパートに分けて評価することになった。それぞれのパートが目指した評価は、それぞれ以下の通りである。

- 第1部 授業に対して「満足しているか」「得たものがあるか」「役に立ったか」など、学生が主観的・主体的な見地から授業を評価する。
- 第2部 学生が授業に向かうときの期待や達成感、授業への参加度などを自己評価する。
- 第3部 それぞれの授業担当者が授業のなかで独自に求めている成果がどれだけ実現されているかを、学生が自己評価する。

■ 2. 授業評価の内容と実施方法

§2.1 「学生による授業アンケート」の構造

以上のような授業評価の目的を踏まえ、授業評価調査票（授業アンケート）は、形式的には実施の都合上、回答用紙AとBの2枚に分かれているが、内容的には大きく次の3つのパートに分かれている。それぞれのパートの調査項目が目指す評価は以下の通りである。（本報告書末の資料を参照）

- 第1部（問1から問4） マークシート方式による回答可能な質問。（回答用紙A）
- 第2部（問5から問7） 学生が授業に向かう態度を理解し、また学生自身に「振り返り」の機会を与えるために適切な問いを設定し、その問いに対して自由記述で答えさせる。（回答用紙B）
- 第3部（問8から問9） 各授業が目指している教育効果の独自性を加味した自由記述。この質問内容は授業担当者にまかされる。（回答用紙B）

できうるかぎり学生の多様な評価の声を聴き取りたいということを考慮して自由記述を大胆に導入している。

§2.2 実施した授業科目

前期・後期の演習・ゼミナール形式の授業のアンケートが終了したので、今回は講義形式の授業を調査することにした。講義形式の授業には「概論」が多く、学部教育において基礎的な知識の伝達と学問への関心を深める重要な意義を持っている。また教員免許・社会教育主事・司書資格などとの関係で科目によっては教育学部外の学生も多数受講しており、教員養成の機能としても重要な意義を持っていると考えられる。実施者と実施した授業科目名は以下の通りである。

【実施者】	【実施科目名】
矢野智司・桑原知子・渡邊洋子	教育研究入門Ⅱ
駒込 武・杉本 均	民族と教育
矢野智司	教育人間学概論Ⅱ
遠藤利彦	発達教育論Ⅱ
齊藤 智	教育心理学概論Ⅱ
大山泰宏	臨床心理学概論Ⅱ
稲垣恭子	教育社会学概論Ⅱ
前平泰志	生涯学習概論Ⅱ
杉本 均	比較教育学概論Ⅱ
高見 茂	教育行政概論Ⅰ

§2.3 実施した対象者

上記授業に出席した学生・院生・聴講生・科目等履修生・その他

§2.4 実施した日程

授業の評価ということでは後期授業の最終日が最適だろうが、今年度中に結果をまとめ報告書を作成することを考慮し、実施は11月1日から11月21日の期間とした。

§2.5 具体的な実施手順

「学生による授業アンケート」実施要項として以下のような教示を担当教員に与え、授業のなかで担当教員から学生に問題用紙、AとBの2種類の回答用紙、回収用封筒を配布した。学生のアンケートへの関心を高めるために、また学生への調査結果のフィードバックのために、アンケートの実施にあたり、口頭で前回の調査結果が教育学部・教育学研究科のホームページに掲載していることを学生に伝えてもらった。

なお授業によって授業時間内で回答したものと、持ち帰ってもらい回答したものとがある。持ち帰ったものは、11月21日までに封筒に入れてもらい回収した。

「学生による授業アンケート」実施要項

- 今回の調査の対象となるのは、後期の、この「講義」の授業です。全員に記入してもらうことが望ましいのですが、決して、強制はしないで下さい。
- この封筒の中には、問題用紙、ABの2種類の回答用紙、回収用封筒が入っています。これらが足りない場合には、事務のカウンターから必要部数をお取り下さい。
- 問9として、この演習の担当教員（授業担当者）が自由に質問項目を設定して、板書して下さい。特にない場合には、設定しなくても結構です。
- アンケート記入に必要な時間はおよそ30分程度です。Aの回答用紙は必ず回収してください。もう1枚のBの回答用紙は、授業時間内に記入時間が取れない場合には、持ち帰らせて下さって結構です。
- 記入が終わったら、回答用紙のみ回収用封筒に入れて封をした上で教員に提出するよう学生に指示して下さい。

■ 3. 「学生による授業アンケート」の結果と分析

§ 3.1 作成と分析担当の区分

それぞれのパートの作成および報告書の執筆は、第1部を桑原知子が、第2部を渡邊洋子が担当した。資料の整理については中池竜一助教・川部哲也助教の助力を得た。最終的な分析については担当者の原稿をもとに委員会で検討した。以下はその結果である。

§ 3.2 第1部の結果と分析（数量分析）

1. はじめに

2006年度は、「演習」の授業を対象として授業アンケートが行われた。それに対して、今回は「講義」の授業を対象としている。そこで「演習」での結果と比較し「講義」の授業を捉えてみたい。

また、2006年度の結果からは、授業に対する肯定的評価が多くみられたものの、回収率が低く、得られた結果がはたして教育学部・教育学研究科全体の意見を反映したものであるかどうかを確かめることができなかった。そこで、今回は回収率を高めるべく、マークシート式の回答用紙と記述式の回答用紙とを別の紙にすることによって、マークシートへの回答とその回収を当該の授業時間内に実施した。これまでアンケートに答えなかったと思われる学生の評価も含めて捉えることができる。そして、これまでの結果が、教育学部・教育学研究科全体の意見を反映したものであるかどうかを確かめることができると思われる。

さらに、2007年度は、教育学部において初めての、「文系・理系」に分かれての入試が行われた年でもあった。そこで、1回生対象科目の講義を分析対象として、文系・理系それぞれの入試スタイルで入学した学生たちの間で差が見られるのか、という点についても分析を試みることにした。

以下においては、アンケートの概要を示したあと、1) 学部生を対象とした「演習」と「講義」との比較、2) 大学院生を対象とした「演習」と「講義」との比較、3) 講義アンケートにおける文系入試学生と理系入試学生との比較という、3つの観点から分析を行うこととする。

2. アンケートの概要

今回アンケートを実施した授業の数は10である。回答用紙A（問0～問4）の回収数は、388枚で、平均回収率は97%であり、回答用紙B（問5および自由記述）の回収数は244枚で、平均回収率は61%であった。授業ごとの回収率については表1に示す。これから明らかのように、マークシート方式の回答用紙（回答用紙A）については、回収率が大幅にアップした。記述式の回答用紙（回答用紙B）については、授業によって、回収率にばらつきが見られた。

なお、今回のアンケート（回答用紙A：講義Aと略、回答用紙B：講義Bと略）に答え

た学生の、「所属」、「回生」、「性別」を、2006年度の「演習」を対象にしたときと並べて、それぞれ、図1、図2、図3に示す。所属については、前回と同様教育学部・教育学研究科がもっとも多く、続いて、文学部、理学部と続く。回生については、「演習」とは異なり、学部生が多くを占め、特に2回生が多い。性別については、2006年度は女性の方が多かったが、今回は、男性の方がやや多いという結果だった。回生の分布（図2、表2）より、今回の結果は、「演習」と異なり「講義」であるという要因に加えて、学部生が多く回答しているという特徴があると考えられる。

表1 授業別回収率

授業名	配布数	回答用紙 A		回答用紙 B	
		回収数	回収率	回収数	回収率
授業1	64	63	98%	46	72%
授業2	17	16	94%	6	35%
授業3	23	23	100%	6	26%
授業4	29	29	100%	16	55%
授業5	37	37	100%	21	57%
授業6	56	54	96%	35	63%
授業7	39	34	87%	31	79%
授業8	9	9	100%	9	100%
授業9	70	68	97%	19	27%
授業10	55	55	100%	55	100%
計	399	388	97%	244	61%

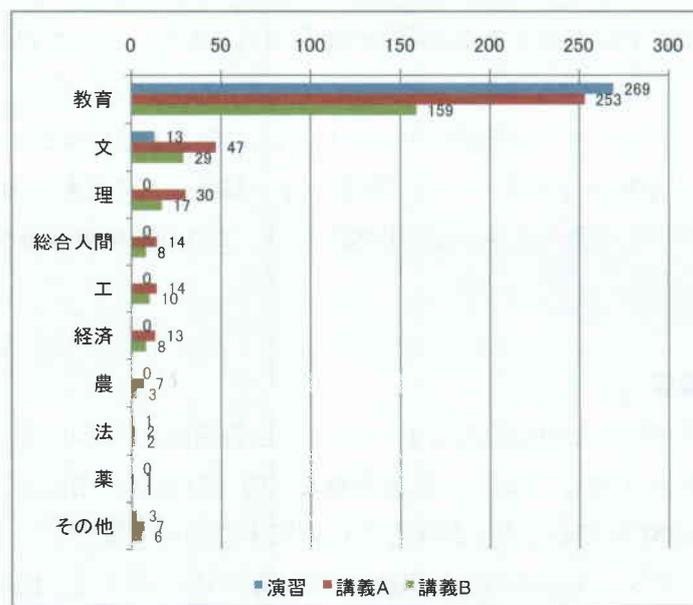


図1 所属

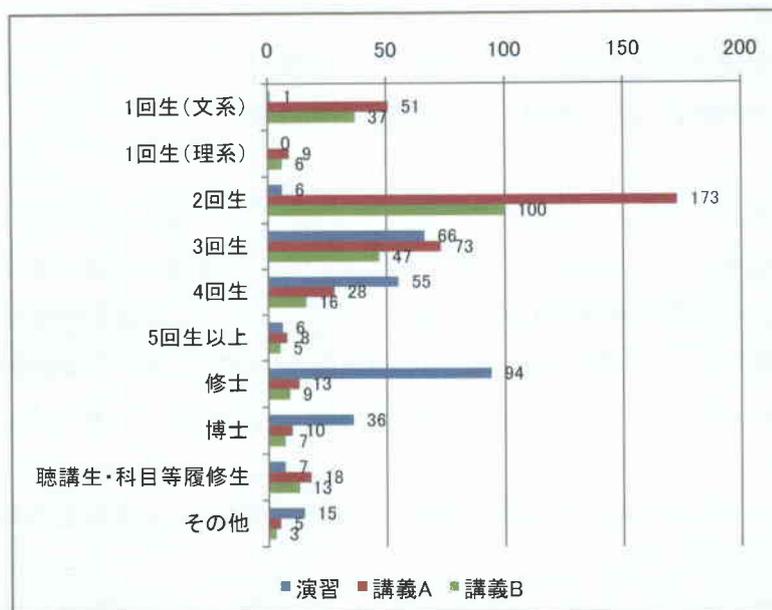


図2 回生

表2 演習、講義別の回生

講義(回生)	演習	講義 A	講義 B
1回生(文系)	1	51	37
1回生(理系)	0	9	6
2回生	6	173	100
3回生	66	73	47
4回生	55	28	16
5回生以上	6	8	5
修士	94	13	9
博士	36	10	7
聴講生・科目等履修生	7	18	13
その他	15	5	3
計	286	388	243

注)演習アンケート(2006年度)実施時にはまだ理系科目入試は行われていない。

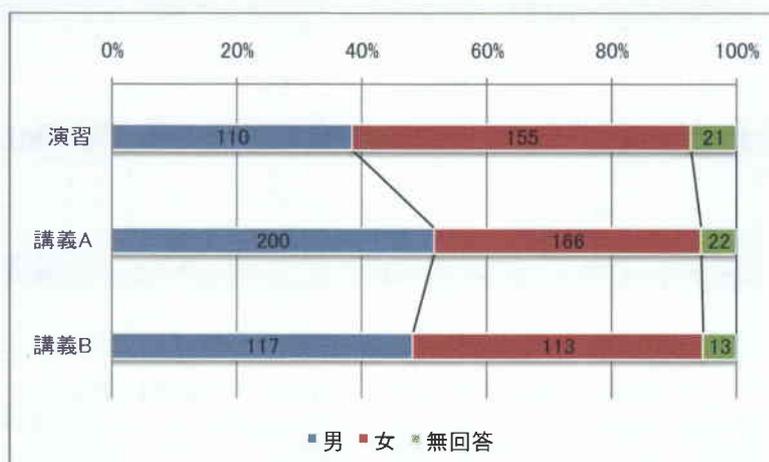


図3 性別

3. 観点別の分析

- 1) 学部生を対象とした「演習」と「講義」との比較
- 2) 大学院生を対象とした「演習」と「講義」との比較

各問に対する答えの分析をする際、その結果が「演習」と「講義」との違いによるのか、それとも「大学院生」と「学部生」との違いによるのかという要因をはっきりさせるため、以下の分析では、学部生と大学院生とを分離して行った。また、1回生の講義アンケート結果は、1つの講義科目からの結果なので、この講義科目については別に分析を行うこととし、「学部生を対象とした分析」では、1回生の結果をはずして分析をおこなった。

この分析において対象とした学生の所属回生を表3、図4に、大学院生の所属課程を表4、図5に示す。

なお、問1～問4は演習と講義A（回答用紙A）を比較し、問5は演習と講義B（回答用紙B）を比較した。

表3 学部生の回生

(観点1)回生	演習	講義 A	講義 B
1回生	1	-	-
2回生	6	173	100
3回生	66	73	47
4回生	55	28	16
5回生以上	6	8	5
計	134	282	168

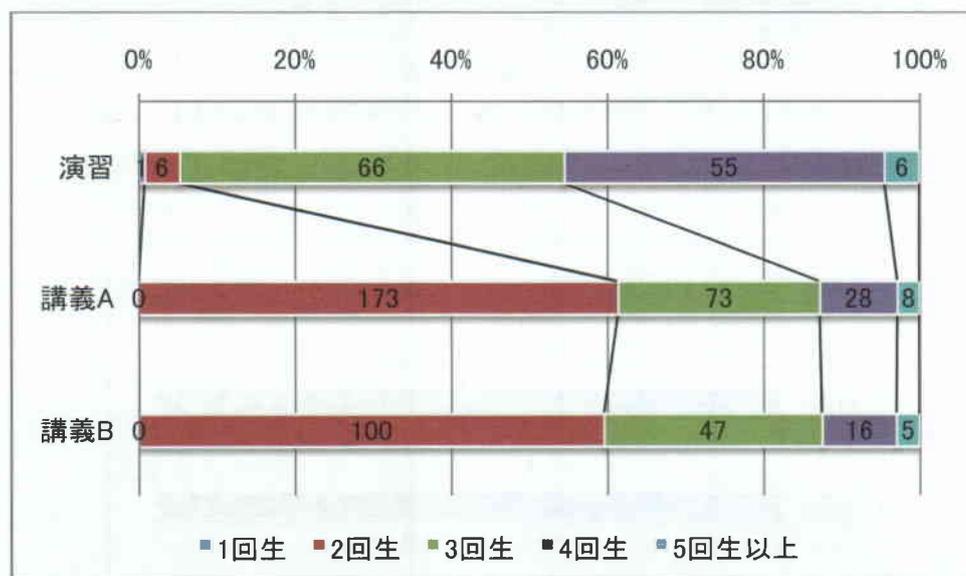


図4 学部生の回生

表4 大学院生の所属課程

(観点2)回生	演習	講義A	講義B
修士	94	13	9
博士	36	10	7
計	130	23	16

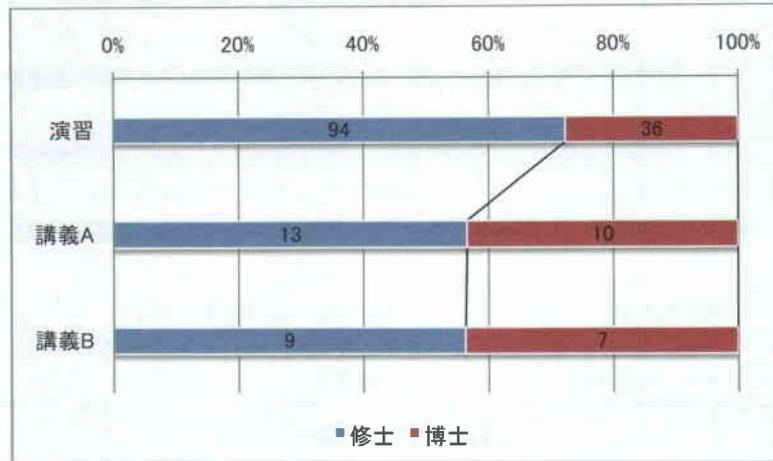


図5 大学院生の所属課程

問1の分析結果

まず、問1「この授業について、満足している／得たものがある／役に立った」という点について、あてはまるか、あてはまらないかについて聞いた結果を示す。表5、図6に学部生の結果を、表6、図7に大学院生の結果を示した。これらから明らかなように、「演習」について聞いた2006年度と同じく、学部生、大学院生ともに大変肯定的な結果が得られた。ただ、詳しく見ると、①「あてはまる」だけをみるならば、「演習」よりは「講義」の方が低くなっており、また、その傾向は大学院生において著しい。②「どちらかといえばあてはまる」までをみると、「演習」「講義」ともに、大学院生よりも学部生の方が低い。③大学院生、学部生ともに、「講義」が「役に立った」という問いに対して「あてはまる」とするものが少ない。

この結果より、2006年度に得られた肯定的な授業評価は、回収率の低さに起因するものではなく、全体的な回答として認められることになった。したがって、「演習」と「講義」とはよく似た肯定的な結果を示しているといえるのだが、より詳細にみるならば、「講義」は、

表5 問1 学部生

(観点1) 問1「この授業について」	満足している		得たものがある		役に立った	
	演習	講義	演習	講義	演習	講義
あてはまる	62	127	83	143	77	92
どちらかといえばあてはまる	41	113	42	108	41	101
どちらともいえない	19	37	9	27	13	76
どちらかといえばあてはまらない	10	3	0	4	3	9
あてはまらない	1	2	0	0	0	2
無回答	1	0	0	0	0	2
計	134	282	134	282	134	282

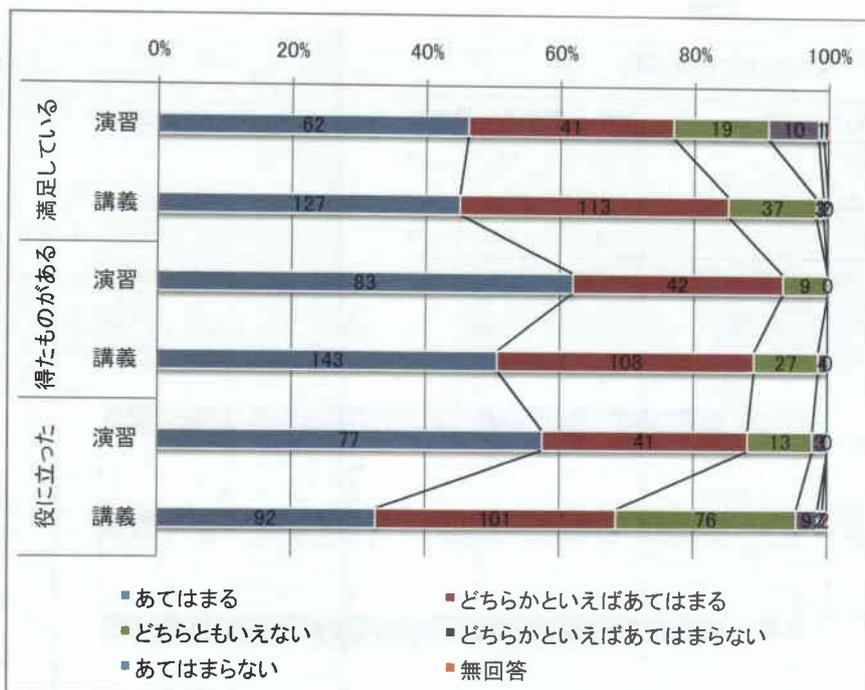


図6 問1 学部生

表6 問1 大学院生

観点2 問1「この授業について」	満足している		得たものがある		役に立った	
	演習	講義	演習	講義	演習	講義
あてはまる	90	10	106	11	97	8
どちらかといえばあてはまる	34	12	21	11	27	10
どちらともいえない	4	1	1	1	4	3
どちらかといえばあてはまらない	1	0	1	0	1	2
あてはまらない	0	0	0	0	0	0
無回答	1	0	1	0	1	0
計	130	23	130	23	130	23

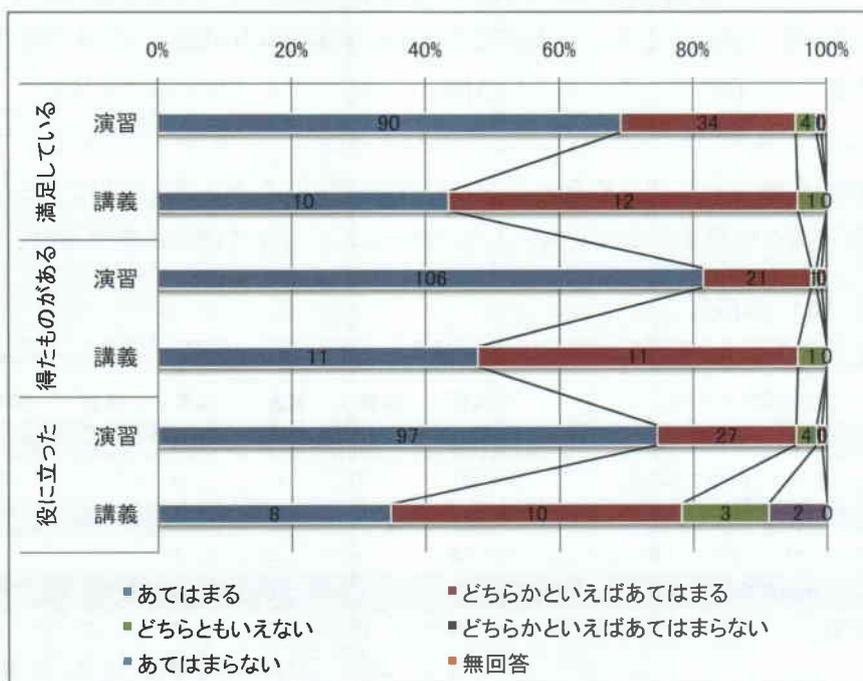


図7 問1 大学院生

「満足感」や「得たものがある」「役に立った」という感じが「演習」よりは低く、その傾向は大学院生において強いといえる。特に、大学院における「講義」が「役に立った」という感覚を与えるものになっているのかという点については、一考の必要があろう。

また、全体的に、学部生の満足度が大学院生に比べて低いことにも注目する必要がある。大学院教育のみならず、学部教育についての関心が払われることが期待される。

問2の分析結果

問2は、「この授業についてあてはまるもの」を回答数に制限を加えず選択させたものである。表7、図8に学部生の結果を、表8、図9に大学院生の結果を示す。

問2においても、問1と同様、「演習」とよく似た結果が得られ、肯定的項目が上位に並んだ。「演習」「講義」、大学院生、学部生を通じて、「考えさせられた」「おもしろかった」「考えが深まった」「視野が開けた」といった感想が多かった。

「演習」のときには、否定的項目のなかで「むずかしかった」がもっとも上位に来て、特に、学部生では5位に位置していたが、今回の「講義」では、特に学部生においては順位を下げている。また「演習」において、「むずかしかった」の次にあがっていた否定項目「負担が大きかった」については、「講義」では激減した。「演習」における「むずかしさ」や「負担の大きさ」は「講義」においては軽減され、特に学部生にとっては「おもしろい」と思えるものとなっているのだろう。

また、興味深かったのは、「演習」と異なり、「講義」では、「熱意が伝わった」という項目が、学部生、大学院生ともに上位にあがったことだった。これはやはり、「講義」においては、「教員が伝えるもの」が大きな意味をもつことを示しているだろう。「演習」とは異なるこうした「講義」のもつ特質を、学生はきちんとキャッチしているのだと推察される。

表7 問2 学部生

(観点1)問2「この授業は」	演習	講義
おもしろかった	71	173
つまらなかった	6	6
考えさせられた	72	138
むずかしかった	53	49
考えが深まった	66	110
負担が大きかった	31	1
認識が変わった	22	86
たいくつだった	12	18
興味にあっていた	34	97
ありきたりだった	2	15
視野が開けた	58	113
なじめなかった	2	12
熱意が伝わった	20	110
ついていけなかった	18	16
惹かれたものがある	24	79

表8 問2 大学院生

(観点2)問2「この授業は」	演習	講義
おもしろかった	80	13
つまらなかった	1	0
考えさせられた	86	18
むずかしかった	25	4
考えが深まった	73	11
負担が大きかった	12	0
認識が変わった	30	7
たいくつだった	3	0
興味にあっていた	38	3
ありきたりだった	1	1
視野が開けた	61	11
なじめなかった	4	1
熱意が伝わった	24	7
ついていけなかった	6	2
惹かれたものがある	25	6

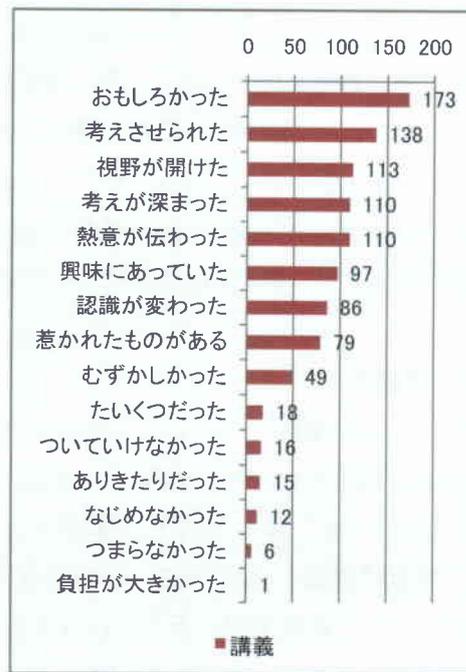
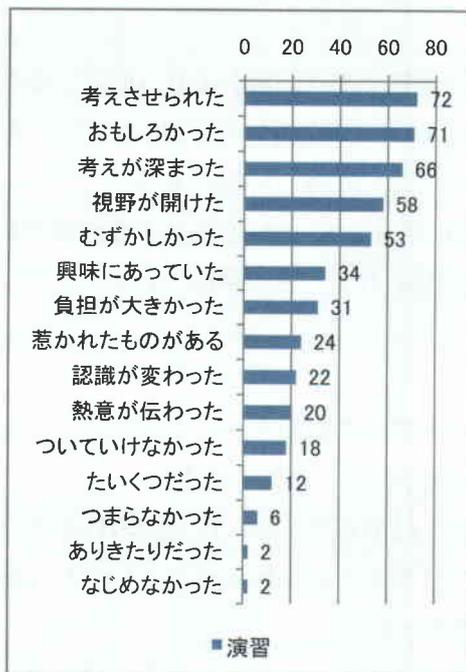


図8 問2 学部生

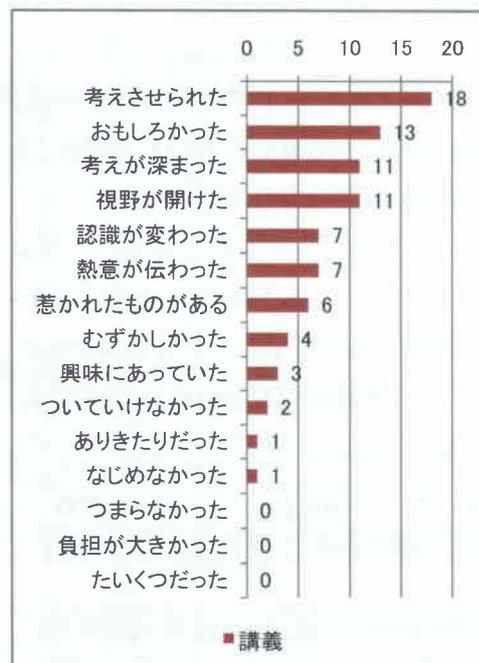
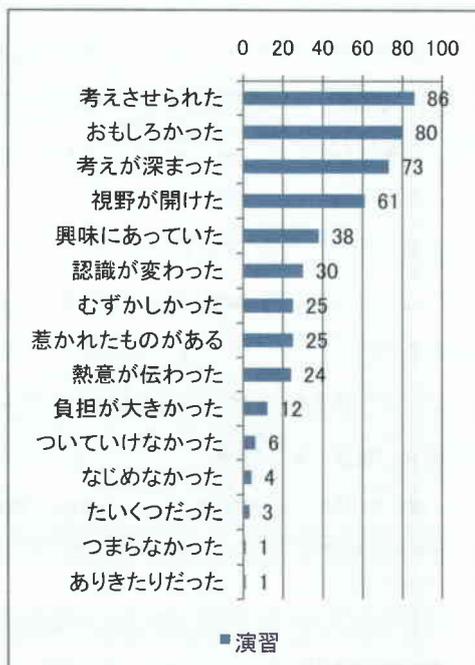


図9 問2 大学院生

問3の分析結果

問3は、「この授業について『最も期待すること』『次に期待すること』」を尋ねたものである。結果を、学部生（表9、図10）、大学院生（表10、図11）に示す。

これらから明らかなのは、学生が「演習」と「講義」とに期待しているものはかなり違うということであろう。そして、その差は、特に学部生において著しい。つまり、学部生は、「演習」と「講義」とに、異なった期待を持って臨んでいるということになる。学部生、大学院生ともに、「講義」にもっとも期待するものは、「知識や理解を深められる」ということ

表9 問3 学部生

(観点1) 問3	「最も」期待すること		「次に」期待すること	
	演習	講義	演習	講義
a. 知識や理解を深められる	22	163	34	46
b. 必要な方法論を身につけられる	37	5	21	17
c. 自分の問題意識を磨ける	46	42	21	59
d. 最新動向に触れられる	5	30	9	73
e. 多面的な考察ができる	17	37	39	68
f. 自分のテーマの検討ができる	6	2	9	9
g. その他	1	3	0	3
無回答	0	0	1	7
計	134	282	134	282

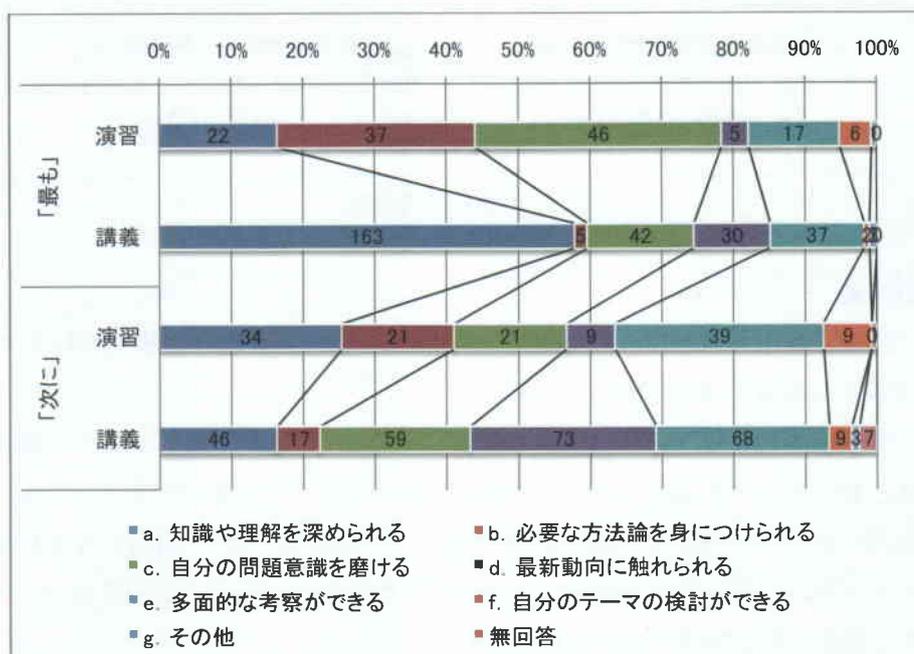


図10 問3 学部生

表10 問3 大学院生

(観点2) 問3	「最も」期待すること		「次に」期待すること	
	演習	講義	演習	講義
a. 知識や理解を深められる	36	10	18	6
b. 必要な方法論を身につけられる	35	0	17	0
c. 自分の問題意識を磨ける	18	3	22	4
d. 最新動向に触れられる	11	5	20	8
e. 多面的な考察ができる	23	5	39	4
f. 自分のテーマの検討ができる	7	0	11	1
g. その他	0	0	1	0
無回答	0	0	2	0
計	130	23	130	23

である。「演習」において多かった「必要な方法論を身に付けられる」という期待は、特に大学院生においては、「講義」で激減している。「講義」ではまた、「最新動向に触れられる」という期待もあり、方法論ではなく、知識や理解を「講義」に求めていることがわかる。

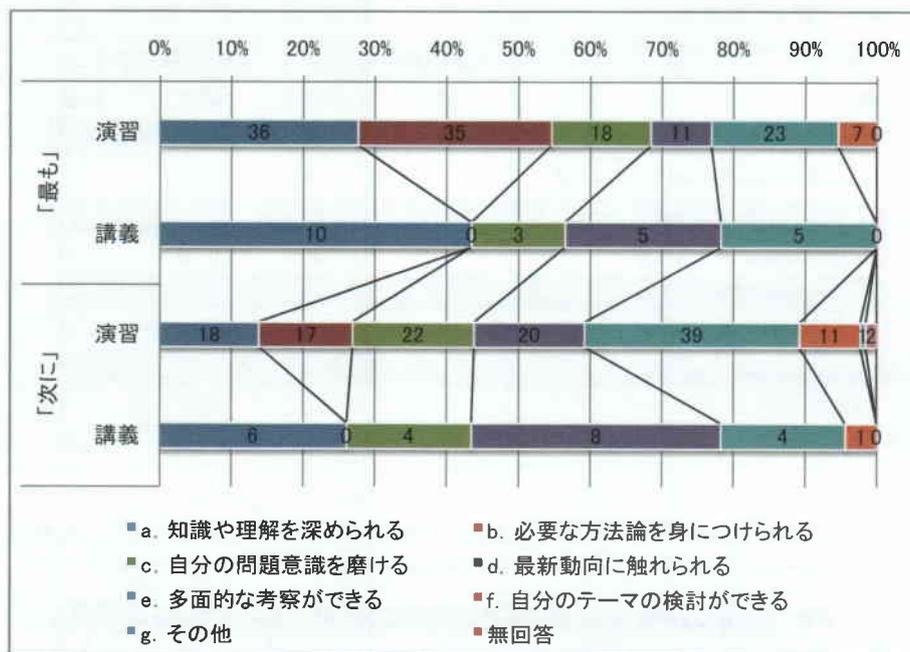


図 11 問 3 大学院生

問 4 の分析結果

問 4 は「問 3 で選んだことからの達成度」を聞いたものである。学部生の結果を表 11、図 12、大学院生の結果を表 12、図 13 に示す。

学部生、大学院生ともに、達成度はかなり高い。ただ、「達成できている」と断言したものはそれほど多いとはいえない。また、学部生と大学院生とでは傾向が異なっており、学部生では「講義」において達成度が高まるのに対し、大学院生では、「講義」において達成度が低くなっている。この結果は、問 1 において得られたものと通じるものであり、大学院生にとっての「講義」の意味を考えさせられるものとなった。

表 11 問 4 学部生

(観点1)問4「問3の達成度」	演習	講義
達成できている	16	46
まあまあ達成できている	87	193
あまり達成できていない	27	39
まったく達成できていない	3	2
無回答	1	2
計	134	282

表 12 問 4 大学院生

(観点2)問4「問3の達成度」	演習	講義
達成できている	36	3
まあまあ達成できている	83	17
あまり達成できていない	10	3
まったく達成できていない	0	0
無回答	1	0
計	130	23

問 5 の分析結果

問 5 は、授業に対して「心がけていること」を 3 つまで答えさせたものである。「演習」と「講義」との比較を可能とするため、問 1～問 4 については、共通の回答選択肢を設けていたが、「講義」のアンケートにおいては、「演習」と同一の選択肢では適切でないもの（たとえば、「雰囲気配慮した発表・進行役」など）があったので、「講義」アンケートでは新たに回答のための選択肢を設定した。

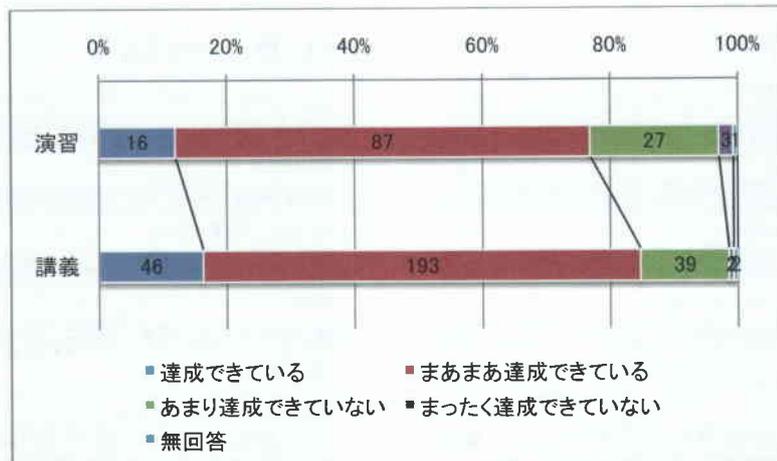


図 12 問 4 学部生

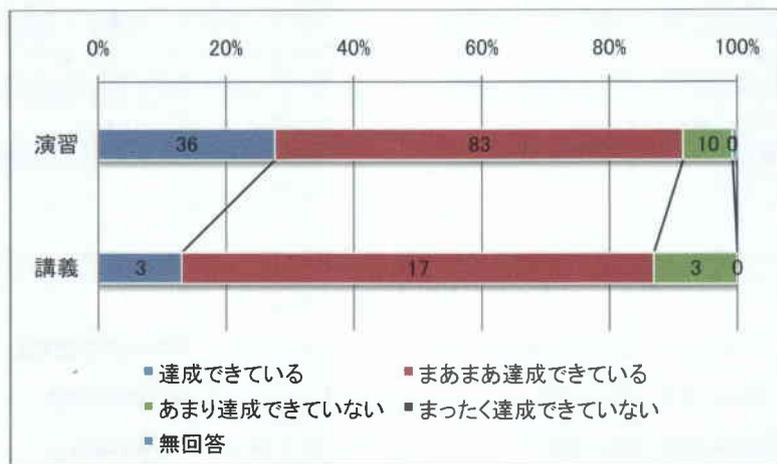


図 13 問 4 大学院生

問 5 に関する結果を学部生 (表 13、図 14)、大学院生 (表 14、図 15) 別に示す。学部生では、「集中して授業を聴く」ということを心がけているものがもっとも多く、「欠かさず出席」もほぼ同数いた。また、大学院生もまた、「欠かさず出席」がもっとも多く、次に「集

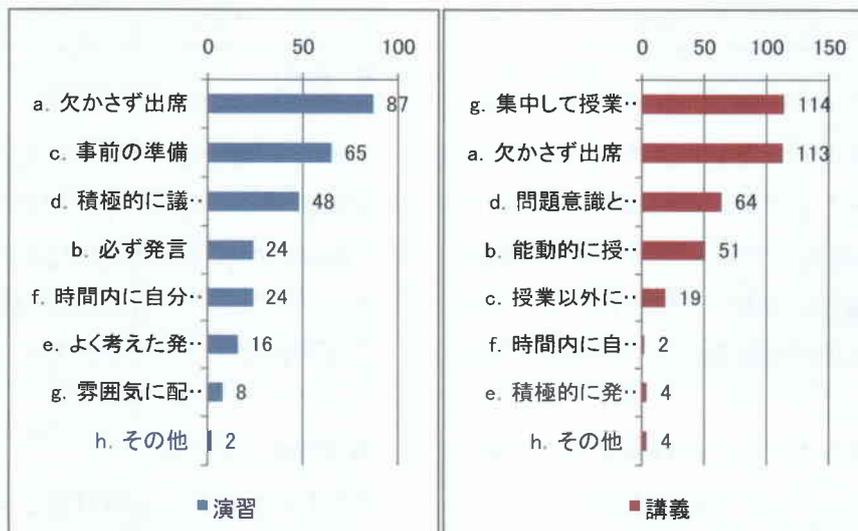


図 14 問 5 学部生 順位

表 13 問 5 学部生

問5「心がけていること(三つまで)」	演習
a. 欠かさず出席	87
b. 必ず発言	24
c. 事前の準備	65
d. 積極的に議論へ参加	48
e. よく考えた発言・質問	16
f. 時間内に自分の疑問点を解決	24
g. 雰囲気配慮した発表・進行役	8
h. その他	2

問5「心がけていること(三つまで)」	講義
g. 集中して授業を聴く	114
a. 欠かさず出席	113
d. 問題意識と照らし合わせて授業理解	64
b. 能動的に授業に臨む	51
c. 授業以外に自主的に勉強	19
f. 時間内に自分の疑問点を解決	2
e. 積極的に発言・質問	4
h. その他	4

表 14 問 5 大学院生

問5「ころがけていること(三つまで)」	演習
a. 欠かさず出席	85
b. 必ず発言	35
c. 事前の準備	51
d. 積極的に議論へ参加	46
e. よく考えた発言・質問	31
f. 時間内に自分の疑問点を解決	26
g. 雰囲気配慮した発表・進行役	25
h. その他	1

問5「ころがけていること(三つまで)」	講義
a. 欠かさず出席	13
b. 能動的に授業に臨む	4
c. 授業以外に自主的に勉強	1
d. 問題意識と照らし合わせて授業理解	9
e. 積極的に発言・質問	0
f. 時間内に自分の疑問点を解決	0
g. 集中して授業を聴く	11
h. その他	0

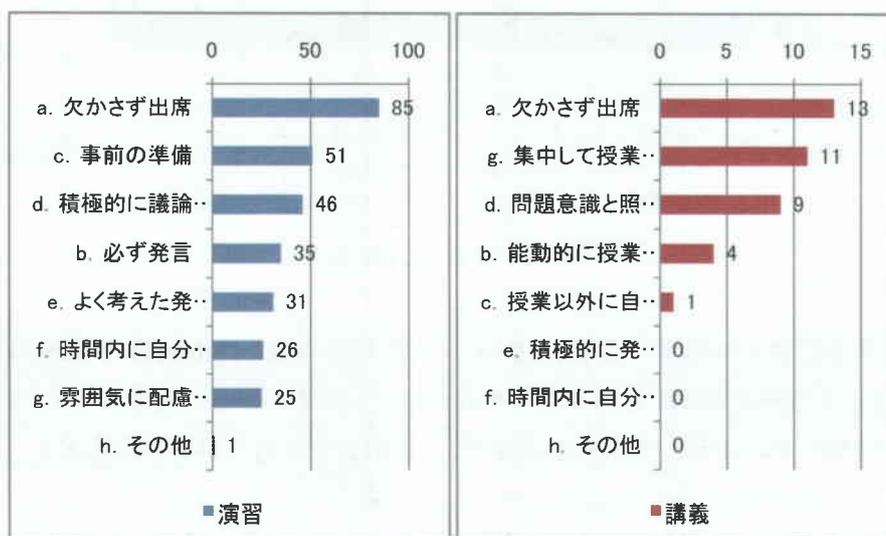


図 15 問 5 大学院生 順位

中して授業を聴く」が選択された。勤勉な出席、まじめな授業態度がうかがわれるように思われる。なお、学部生、大学院生ともに、次に「問題意識と照らし合わせて授業理解」がきており、「積極的に発言・質問」や「授業以外に自主的に勉強」、「能動的に授業に臨む」といった、積極的・能動的な態度はあまり上位にこなかった。勤勉で、まじめな授業態度を心がけるが、積極性や能動性については、あまり取り上げられなかったことになる。

3) 講義アンケートにおける文系入試学生と理系入試学生との比較

2007年度に、文系・理系入試を経て入ってきた初めての学生が、今回対象となった1回生である。わずかに1科目での分析であり、また数も少ないので、確かなことは述べられな

表 15 文系入試学生と理系入試学生

回生(講義・1回生)	講義 A	講義 B
1回生(文系)	51	37
1回生(理系)	9	6
計	60	43

注)問1～問4は回答用紙 A を用い, 問5は回答用紙 B を用いて比較する。

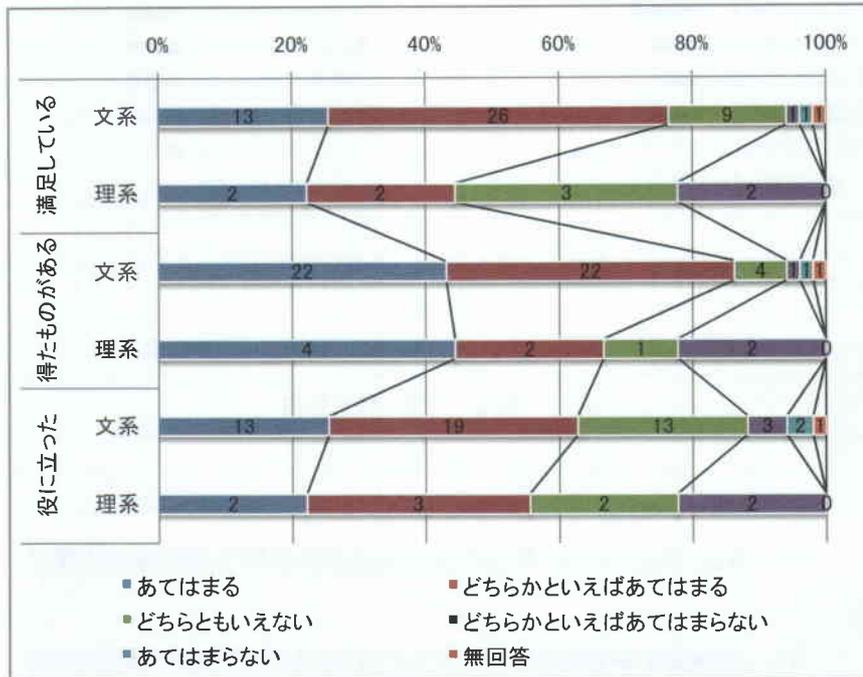


図 16 問 1 文系・理系比較

いが、試みに分析をおこなってみた。その結果を報告する。

表 15 は、文系入試学生と理系入試学生の人数比率である。「講義 A」は、講義の回答用紙 A を、「講義 B」は、回答用紙 B を表している。

図 16～図 22 は、それぞれ、問 1～問 5 までの答えを文系・理系別に集計して図示したものである。「満足している」「得たものがある」「役に立った」について問う問 1 では、「満足している」において、理系入試学生の方が低い満足度を示しており、「どちらかといえばあてはまる」までを加えても半数に満たない (図 16)。

授業について問う問 2 では、2 回生以上の学部生などと同様、肯定的な項目が上位を占めた。「おもしろかった」「考えさせられた」などが上位を占めることは共通しているが、理系入試学生で「認識が変わった」という項目が上位にきているのが目をひく。否定的な項目でもっとも上位にきたものは、学部生や大学院生とは異なり、「むずかしかった」ではなく、「たいくつだった」であった (図 17)。1 回生の場合、みずからの興味と一致しない講義科目の場合、積極的に関わっていかうとするよりは、関心がひき、撤退する傾向があるといえるかもしれない。特に、理系入試学生の場合、どのような期待をもって教育学部に入ってきたのか、想像と実際との間に「ずれ」はないのか、細やかに検証していく必要があると思われる。

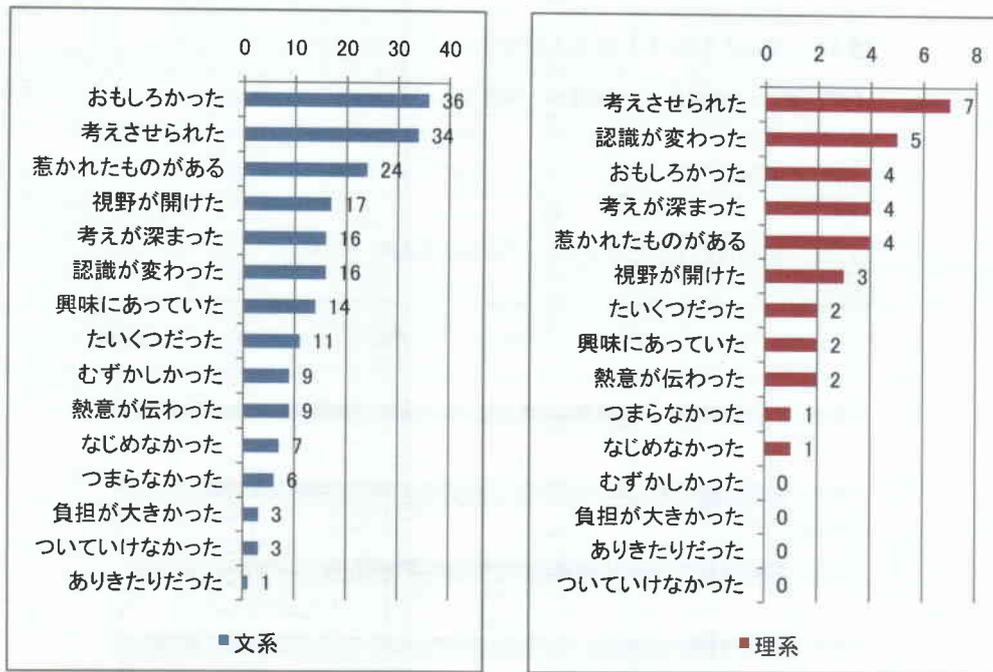


図 17 問 2 文系・理系比較

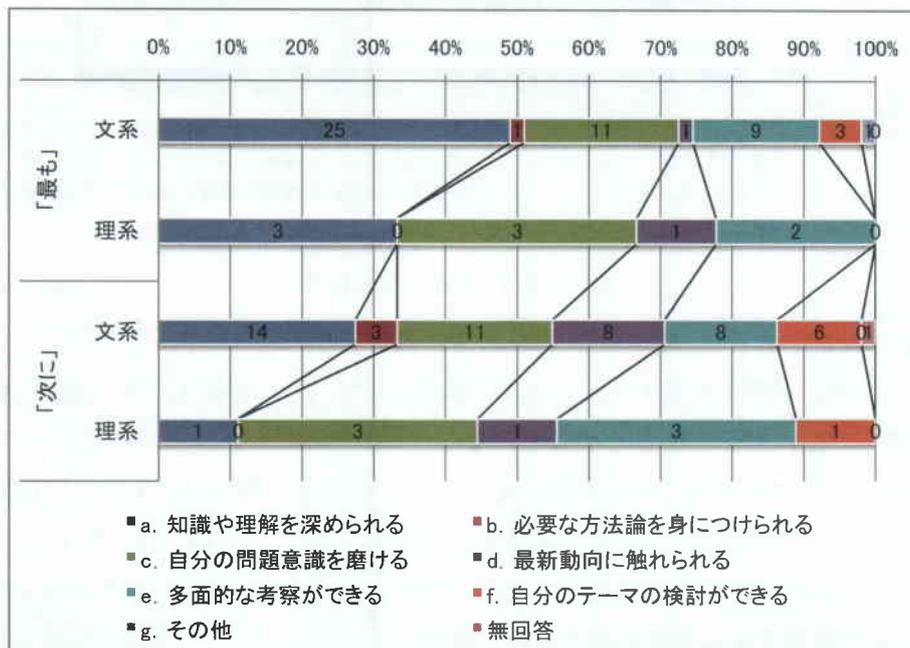


図 18 問 3 文系・理系比較

問 3 は、授業に「期待すること」を問うている。文系入試学生と理系入試学生とでは少し傾向が異なっている (図 18)。文系入試学生は、「知識や理解を深められる」ことを授業に期待するのに対して、理系入試学生は「自分の問題意識を磨ける」という項目において、文系入試学生よりも高い割合を示している。まだ数も少なく確言はできないものの、文系入試学生と理系入試学生とは、授業に対して異なった期待を持ちつつ臨んでいる可能性が示唆される。また、問 4 は、問 3 であげたことに対する達成度を聞くものであった。これは、「まあまあ達成できている」というものまで含めると、文系入試学生と理系入試学生、双方において、70% 近くが達成できたと答えていると考えられる (図 19)。

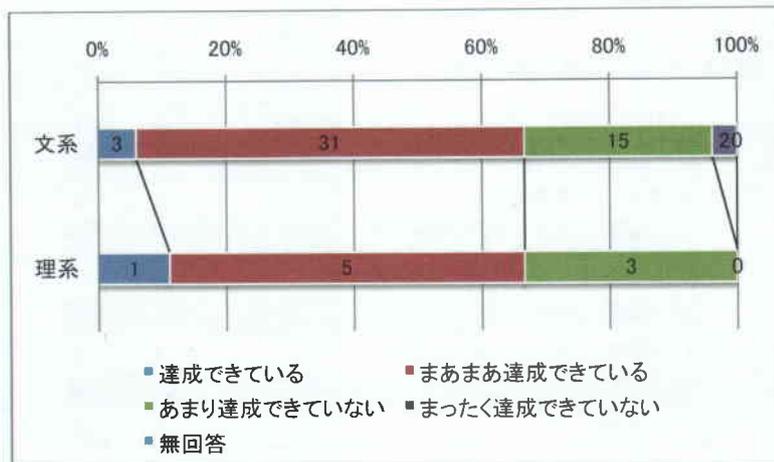


図19 問4 文系・理系比較



図20 問5 文系



図21 問5 理系

表16 問5 文系

(観点3)問5「心がけていること(三つまで)」	文系
d. 問題意識と照らし合わせて授業理解	25
a. 欠かさず出席	21
g. 集中して授業を聴く	18
b. 能動的に授業に臨む	9
c. 授業以外に自主的に勉強	6
f. 時間内に自分の疑問点を解決	4
e. 積極的に発言・質問	0
h. その他	1

表17 問5 理系

(観点3)問5「心がけていること(三つまで)」	理系
d. 問題意識と照らし合わせて授業理解	5
g. 集中して授業を聴く	5
a. 欠かさず出席	4
c. 授業以外に自主的に勉強	1
b. 能動的に授業に臨む	0
e. 積極的に発言・質問	0
f. 時間内に自分の疑問点を解決	0
h. その他	0

問5は、「心がけていること」を3つまで書かせるものである。文系入試学生、理系入試学生ともに、もっとも多かったのは、「問題意識と照らし合わせて授業理解」であった。その後、「欠かさず出席」「集中して授業を聴く」という、学部生、院生が上位にあげた項目が続く。ただ、「能動的に授業に臨む」は、文系入試学生にはあげられたのに、理系入試学生でこれをあげたものはいなかった。「積極的に発言・質問」は、文系・理系ともに選ばれず、1回生においても、積極性や能動性は重視されない傾向がみられた。

表 18 問 5 文系・理系比較

(観点3)問5「ころがけていること(三つまで)」	文系	理系
a. 欠かさず出席	21	4
b. 能動的に授業に臨む	9	0
c. 授業以外に自主的に勉強	6	1
d. 問題意識と照らし合わせて授業理解	25	5
e. 積極的に発言・質問	0	0
f. 時間内に自分の疑問点を解決	4	0
g. 集中して授業を聴く	18	5
h. その他	1	0

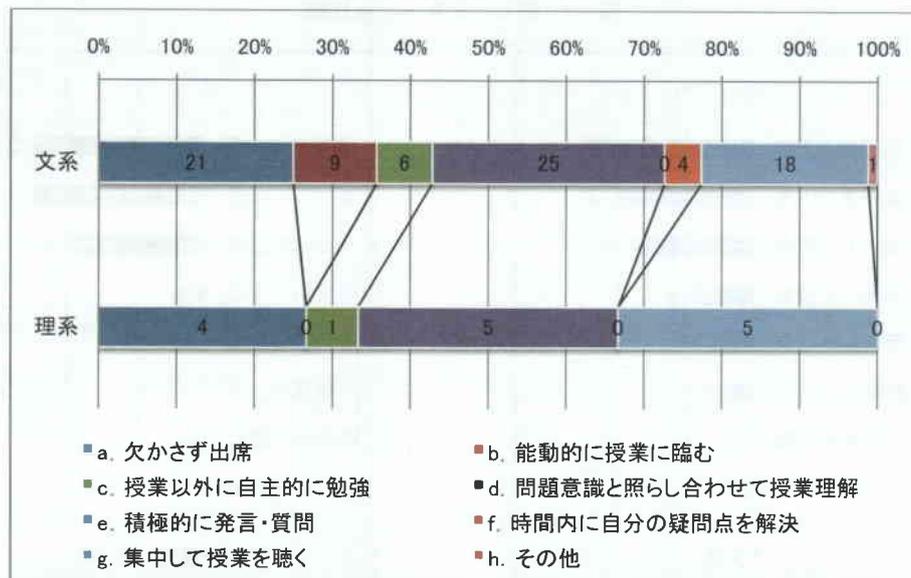


図 22 問 5 文系・理系比較

4. まとめ

今回は、「講義」の授業を対象とし、2006年度に実施した「演習」の授業において得られた結果との比較をおこなうことを主眼として授業アンケートが実施された。そして、2006年度の結果から授業に対する肯定的評価が多く認められたものの、回収率が低く、得られた結果がはたして教育学部・教育学研究科全体の意見を反映したものであるかどうかは確かめられなかったという反省から、より回収率を高めて、結果を確かめることも目的として実施された。

結果は、回答用紙に工夫を加えたことや実施方法を変更したことにより、回収率が大幅に上がった。そして、それにもかかわらず、前回と同様、授業に対しては、肯定的な評価が下され、教育学部・教育学研究科全体の傾向であることが認められた。

しかし、こまかくみていくと、「講義」において大学院生がもっている満足度は、「演習」に対して示されたほどは高くなく、また学部生の満足度が概して低めであることも指摘された。

学部生、大学院生は、ともに、「演習」と「講義」がもつ授業形態の特徴、そこから得られるものを敏感にキャッチしており、そこに期待するものも異なっていることがうかがわれた。また、「心がけていること」を問うた結果からは、学部生、大学院生ともに、「欠かさず出席」ということをあげており、「集中して授業を聴く」とともに上位を占めた。勤勉な出席、まじめな授業態度がうかがわれるように思われるが、一方で、「能動性」や「積極性」については重きがおかれていない傾向がうかがわれた。「演習」においても、「欠かさず出席」が、学部生、大学院生ともに最上位にきており、次いで「事前の準備」があがり、そのあとに「積極的に議論へ参加」があげられている。教育学研究科の学生にとって、「能動性」や「積極性」は、それほど心がけるべきことがらとしてはとらえられていないということになるのか。最後に、探索的な試みとして、2007年度に初めて実施された、文系・理系入試を経て入学した1回生の回答についての比較分析をおこなった。人数が少なく、また1講義のみからの結果なので確言はできないが、文系入試学生と理系入試学生とで、授業に対する態度、期待するもの、満足度などに差がある可能性が示唆された。特に、理系入試学生の場合、教育学部における授業がどのようなものだとして期待して入ってきたのか、それとのギャップが生じていないかといった点について、細やかにフォローしていく必要があるように思われた。

§ 3.3 第2部の結果と分析（質的分析）

第2部では、自由記述のうち、第1部でみてきた数的データの意味を考える上で重要と思われるものに焦点を当てる。前2回の調査対象が演習・ゼミナール形式の授業であるのに対し、今回の調査対象となった授業が、受講形態の異なる「講義」形式の授業であることから、両者にどのような違いがあるかという点に注目していきたい。

問4-1「問3で選んだことからは、この授業ではどの程度達成できていますか?」と、問3について、その達成度を問うものであった。表16および図23からわかるように、「達成できている」が15.7%、「まあまあ達成できている」が67.0%の回答を得ている。合わせて約83%近くの回答者にとって、受講前に期待していたことが、受講によって一定以上「達成できている」と受け止められているようである。

表19 問4(1)問3で選んだことからの達成度

問4(1)	人数
達成できている	61
まあまあ達成できている	260
あまり達成できていない	61
まったく達成できていない	4
無回答	2
計	388

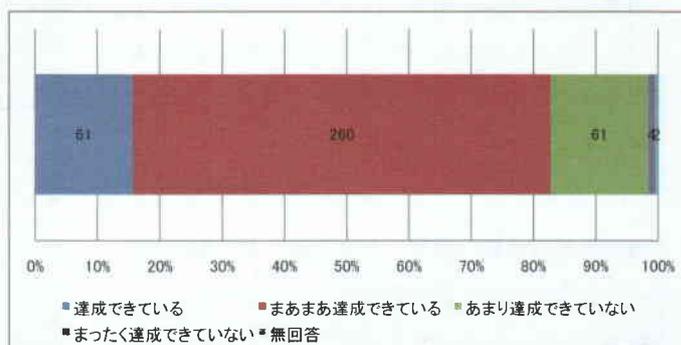


図23 問4(1)問3で選んだことからの達成度

問4-2「上記のように思う理由について詳しくお書きください。」に対しては全般的に、設問に誠実に回答しようとする姿勢が顕著にうかがえた。

◎「達成できている」「まあまあ達成できていない」と回答した理由

各々の記述を見ると、問4(1)で「達成できたか否か」の回答をした際に判断の基準をどこにおいたかが、3つのタイプ(①自らの意欲や取り組みを重視するタイプ、②ニーズや受講実態に見合っていることを重視するタイプ、③教員の取り組み姿勢や授業の具体的な進め方を重視するタイプ)に大別されることがわかる。各々で、代表的と思われる記述を、あげてみよう。

①自らの意欲や取り組みという観点からみて、当該講義を学習機会として十分に活用できたと捉えるタイプ

* 授業への態度と関わって

「毎週、欠かさず授業に出席しているから」

「頭を使いながら授業を聴いているから」

「興味を持った課題に関しては自分で調べる等している」

* 授業の理解度と関わって

「授業の内容を理解できていると思うから」

「授業の内容にある程度ついていけていて、理解できていると思うから」

「授業をしっかり聞いて理解していると感じるから」

* 授業への取り組みを通して獲得できたことと関わって

「講義を聞き、レポートを作成する中で、多くのことを考えることができ、自分の考えを自分なりに整理することができたという実感がある」

「もともと関心を持ちやすい内容で、興味をもって『聞く』だけでなく『考える』ことができていると思うので」

「1つの話題について様々な側面から見ることができたから」

「今までになかった物の見方が得られ、それを自分と結びつけることができたのはとても大きな果報で、興味がわいたこともありました」

「講義内容は難しく完全には分からないが、かえて自分で考える機会になるから」

「いま『わからなくていい』と考えられるようになった。それが本当に面白いところだと思うからです」

「自分がやっている課外の活動等に対して、授業でふれられた概念を用いて考えを深めつつあるから」

「進路を決めるキッカケとなった」

②当該講義が回答者のニーズや受講実態に見合っていることを重視するタイプ

* 当該領域の全般的理解に有効であったとの記述

「その分野について総合的に触れているから」

「概論ということではなじみやすい内容を扱ってくれているので、知識がなくてもついていきやすい」

「専門外の分野ですが、わかりやすい説明なので、楽しく授業を受けることができています」「理論の

様々な面、知識について、系統だてて、わかりやすく講義していただいているので」「当該分野の中の1つの分野の研究を系時的に流れを追いながら説明することでその分野の目的や理論がとても理解しやすい」

「毎回の授業で異なったテーマが扱われており、広範囲の知識をある程度深いところまで学ぶことができたから」

*** 授業を通して新しい視点や考え方に触れられたとの記述**

「今まで全く知らなかったことについて知ることができているから」

「一見似たような問題にも異なった背景があって、多面的に問題を考えられるようになった」

「授業で扱う領域に関して、今まで自分になかった観点を示されたから」

「全般的知識は得られなかったが、新しい考え方・見方を学んだ」

「当該領域に対するイメージががらりと変わりました」

*** 授業内容が回答者の興味・関心に合っていたとの記述**

「授業内容が自分の問題関心とかかかわっているため」

「学びたい(興味を持っている) ことについてわかりやすく、系統だてて教えていただいているので」

「講義なのでどうしても受身になってしまいますが、とても興味深い内容で、できるかぎりのことを吸収しようと思います」

「今まで自分が抱いていた問題意識に関することで、教員から新しい視点を与えられたり、実際の現場でのようすなどの話をきくことができている」

*** 授業の方法が回答者の授業への要望や取り組み方に合っていたとの記述**

「授業の難しさも調度よく、色々と考えさせられる」

「先生の分かりやすい説明・授業構成と、教科書にはない新しい研究成果が得られるから」

「常常疑問に思っていて、答えのできないものが少しずつ解決されていくように思えるから」

「今まで他の授業で学んだ内容を補強できているから。紹介された本を読むことで、より知識を強固にし、理解を深めたい」

「自分にも経験のあることを照らし合わせながら授業を聞けるから」

「自分の頭で考える余地を与えられているから」

③ 教員の取り組み姿勢や授業の具体的な進め方などに、すぐれた要素や適切な配慮がみられることを重視するタイプ

*** 教員の説明や授業構成をあげるもの**

「授業中もくわしく説明してくださるので、とても充実した授業になっていると思う」

「明快な説明が素晴らしい」

「具体例などを話していただけるので分かりやすい」

「とても分かり易く、すごく難しい事のはずなのに、勘どころがつかめるようにして下さっている。」

「グラフや図についてはぱっと見てもなんだかよく分からないが説明を聞いていると話との関連性が分かり、理解につながっていると思う」

「『考えさせる』ということがうまくなされていると思う。様々な考え方と知ること、自分の問題意

識も考えることができる」

***配布物や板書、機器の活用をあげるもの**

「授業に使うレジュメがわかりやすく、講義もよく構成されているから」

「板書やプリントがまとまっていて、あとから見直した場合もよくわかる」

「グラフや表と合わせて授業が進むので、全般的に分かりやすいため」

「資料が良くできており、データもわりと最近のものである」

「パワーポイント・資料を用いてわかりやすくまとめられているから」

「領域全般について、パワーポイントを用いてわかりやすく説明されている」

「スライドを用いたわかり易い授業で、知的好奇心が刺激され、疑問も生まれ結果的に自分で考えることにつながる」

「プレゼンの勉強にもなる」

***授業の形態や工夫をあげるもの**

「相方向型の授業で、より理解が深まりました」

「学生に意見や質問を述べる機会を積極的に与えているため」

「グループワークもあり、きいてばかりの授業ではないから」

「グループワークは面白いし、教授の解釈を聞くのは参考になる」

「テストでキチンと復習する機会が設けられているから」

◎「あまり達成できていない」「ほとんど達成できていない」と回答した理由

***回答者自身の問題意識や関心のなさをあげる場合**

「関心領域と結びつけにくい」

「内容があまり身近でないため、実感は湧かない」

「普段、専門が違うので」

「問題意識自体をあまり持っていない」

「教員免許取得に必要なので受講している。そのためあまり身が入っていないような気がする」

***回答者自身の努力不足や取り組み姿勢の問題をあげる場合**

「体調不良であまり出席できていない」

「自分の勉強不足」

「授業になかなか集中出来ていない事が多いので」

「自分が概説書を読んでいなかったり、授業の復習をしていないため」

「単位をとればいいので自分次第」

「私自身がちゃんとできていないのがいけないと思うので、先生のせいではありません」

***授業内 容の理解が不十分なことをあげる場合**

「講義の中で知識は得られるが、完全に自分の中で消化していないため」

「内容は非常に興味深く、おもしろいが、抽象的なことが多いので私の理解が追いつかない部分もある」

「知らないことが多いので、色々学ぶところがある。けれど、所々理解しきれない点がある」「この授業を受けることで新たな知識を得ることができた。しかしまだ十分ではないと考えるため」

「まだまだ授業に対する集中力が低く、教わった内容を正確に理解できていないから」

「レジュメをもらって講義を聞いているが知らない事が多く、頭に入ってこない」

*** 授業を自分なりに消化できていないことをあげる場合**

「知らないことばかりなので日々吸収しようとしているが、それにつて自分なりの考えがまだ深められていないと思うから」

「授業中に紹介された考え方を自分が納得のいくように身につけられていないから」

「毎回の授業後の（自分の）コメントの中で考察部分が少ない。そして反省をふまえた復習があまりできていないように思うから」

「先生がいろいろな話をして下さるが、自分が考察することは少ない」

「だいたいのはわかったが、細かい知識を自分で調べる必要があると思うができていないから」

「十分な知識があたえられていると思うが、一方でそれらの間の有機的なつながりが見えにくく、現実の問題に対して応用するのがやや難しいと感じた」

「話を聞いて理解はしている。けれどそれが今すぐに役立つのかを判断するのは少し難しいです」

*** 授業自体のあり方に関わって言及している場合**

「方法論に関する話が少し多いように感じました」

「予備知識が少ない上に、授業の進み方があまりにスムーズなのでついていけない」

「半期ということもあり、あまり内容が広がらない」

「時間の関係で先生方も授業の範囲を短くしなければならないと思うので」

「授業時間だけで達成することは難しいです。参考文献などを示していただくなどひとりで学習することができればありがたいです」

問4-3「(1)で「あまり達成できていない」「ほとんど達成できていない」と答えた方は、どのようにしたら、それらが達成できるようになると思いますか?」については、前掲のような内容を反映する回答がほとんどであった。「それが今わからなくて苦しんでいます」という回答もあった。

回答者自身の問題意識や関心のなさについては、「自分自身で問題意識を広げること」「さまざまな分野に興味を広げること」など、自己変革しようという前向きな姿勢が見られた。また自らの努力不足や取り組み姿勢の問題、理解不足、消化できていないなどの問題に関わっては、「自分自身のモチベーションをもっと上げる」「具体的な目的意識を持つ」など、自らの取り組みの基本姿勢を変えることをあげるもの、「一番前にすわる」「真摯な態度で聞くこと」「しっかり授業を聞きます」など授業中の受講態度を改めることをあげたもの、「復習をして内容を自分のものにしたい」「もっと授業中に提示された本を求めて読まなければいけない」「授業後にその分野の文献を読みあさって深めていく必要があると思った」などと、授業後にそれを補足するための自主的な取り組みをすべきであると自覚するものがあげられていた。

他方、授業自体のあり方に関わって言及したのものとしては、「おもしろい話をする」とい

う抽象的なものも見られたが、「資料等を多く用いてほしい」「板書以外にも映像や写真をつけてほしい」「たまには、ビデオなどを使った現状などをみて変化がほしい」「レジュメにもっとくわしく説明を書いてほしい」「レポート等の課題があるとよい。たとえ単純な授業の感想でも」などが見られた。問5「あなたがこの授業を受ける中で、心がけていることや気をつけていることはどんなことですか?」は、回答者が講義を受ける中で日頃心がけていることを尋ねる設問であった。そこでは、「欠かさず出席する」「集中して授業を聴く」が各々67.6%、66.4%と抜きん出て多く、講義形式の授業でも、「必ず出席して集中的に講義を聴く」ことが基本と認識されていることが改めて確認された。次いで多いのは、「自らの問題意識と照らし合わせて授業理解に努める」「能動的に授業に臨む」(各々、45.5%、28.7%)であり、ここでは、「出席して講義を聴く」ことより一步踏み出した受講態度が目指されていると言える。「時間内に疑問点を解決」「積極的に発言」(各々、3.3%、0.8%)も同様の主旨によるものであるが、これらは少数であった。さらに授業を有意義にするための授業外の時間における自主的・発展的な学習については、12.3%があげるにとどまった。

表20 問5 心がけていること
(回答数は3つで)

問5(心がけていること)	人数
欠かさず出席	165
集中して授業を聴く	162
自らの問題意識と照らし合わせて授業理解	111
能動的に授業に臨む	70
授業以外でも自主的に勉強	30
時間内に疑問点を解決	8
積極的に発言	2
その他	5

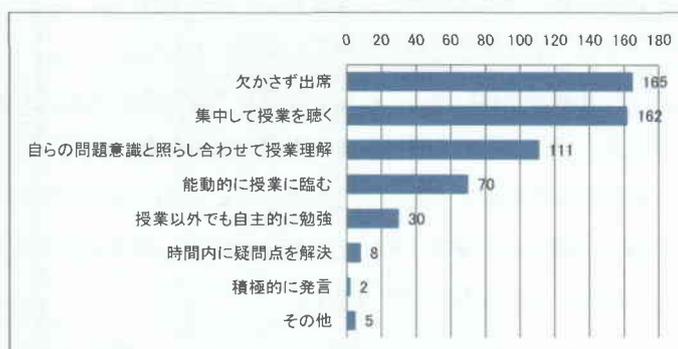


図24 問5 心がけていること (回答数は3つで)

問6「問5であげたことに取り組もうとするときに、授業の運営の仕方や時間の使い方などが今とは違っていればよいと考えることがありますか? 工夫・改善したほうがよいと思える点について書いてください」(自由記述)については、多くの建設的な提案がなされていた。以下、「学生側の工夫・改善」のための事項としてあげられたものと、「教員側の工夫・改善」のための事項としてあげられたものに分けて、具体的に見てみよう。

[学生側の工夫・改善]としては、「選んだもの(科目)が受動的なことが多いので、もっと能動的な取り組みもしたい」の記述に代表されるように、自らが能動的態度や取り組みを行うことをあげるものが多かった。

* 講義に臨む前に……

「日頃からの、関連知識の蓄積」

「少なくとも授業で扱うような文章については、読んでおきたい」

「事前にある程度の知識を入れておく」

「授業前に前回までの復習をきちんとすること」

*** 講義では……………**

「きちんと睡眠をとって万全の状態に臨むこと」

「毎回もっと自覚を持って出席する」

「アクティブ・リスニング」

「疑問に思ったことをメモにとる」

「ただノートを板書するだけでなく、考えながら書き取る。読みかえしてわからないところがあれば質問する」

「ただ内容を受け取るだけでなく、少しこだわって自分の意見をもつようになる」

「社会に出た時にどのようになりたいかという明確なイメージをもって、臨む」

「自分の考えと照らし合わせながら、積極的に授業を受ける」

*** 講義を受けた後に……………**

「復習を毎回きちんとやると、疑問点もでてきてさらに深まると思う」

「授業内容で後で疑問に思った事をきちんと処理するようにする」

「授業中に提示された参考文献にあたりたい」

「もっと原著を読んで、理解を深めたい」

【教員側の工夫・改善】としては、教員の授業の進め方や授業構成に関わること、講義内容を提示する際の補助手段に関わること（板書、レジュメなど）、参考文献などの情報提供に関わること、学生の授業参加や感想・意見の反映に関わること、時間配分などに関わること、などが授業をよりよくするための提案ないし要望としてあげられている。

*** 教員の授業の進め方や授業構成については……………**

「もう少し先生の話し方がゆっくりだと助かると思います」

「後ろの方まで声が聞こえるようにしてほしい」

「もう少し講義のスピードをおとしていただけたらと思います」

「もう少しゆっくり内容を整理しながら進んでほしい」

「今日やることについて、初めに大まかな枠を言っておいてほしい」

「全体の流れを大筋で始めに示すこと」

「個別のことを詳しくやる前に全体の体系の中でどの位置にあるのかをはっきりさせてほしい」

「テーマ毎にもっと時間をかけてから、次のテーマに移る」

「例えば身近な問題→これまでの研究→現在どのように発展しているか…といったように順を追って説明する等」

「ポイントとなる事柄をくり返し言ってほしい」

「授業内容がどの領域に関連しているのかももっと具体的に詳しくわかると良い」

*** 講義内容を提示する際の補助手段については……………**

「板書が後で読みかえた際に脈絡を取りやすく、理解しやすいものであれば良い」

「(口頭での説明が) ノートに取りきれない時があるので、もう少し板書をしてほしい」

「板書をもっと丁寧に書いてほしい」

「板書をゆっくりしてほしい」

「授業の内容を資料としてまとめてほしい」

「板書がとりにくかったり、イメージしにくかったりするの、レジュメを多くした方がいい」

「もう少し詳しいレジュメがあれば余裕を持って講義を聴けると思います」

「講義内容が膨大なので、ノートをとることが大変。パワーポイントと、レジュメを用意してほしい」

***参考文献などの情報提供については……**

「参考書などをもっと紹介してほしい」

「講義を理解するために参考になる図書を授業中に紹介してほしい」

「参考文献の提示や自主的に読むレジュメ等の配布」

***学生の授業参加や感想・意見の反映の仕方については……**

「トピックを取り上げての討論やグループ毎での意見交換など、こちら側にも強制的にアクションを求める授業形態なら良かったと思います」

「講義形式だけでなく、生徒参加型の授業形態を取り入れるべき」

「授業中に少しでも学生の意見を求めるような時間をとってみたいのではないか」

「授業中に自分の問題意識を教員に伝える機会がないので、アンケートのようなものをしてほしい」

「質問やコメントが共有できるとよいと思います (コピーを配布するなどして)」

「コメントカードの導入や、そこで書かれたことに対するフィードバックが (次の授業で) あればいい」

「(コメントの) レポート用紙を授業の最初に配ってほしい。初め、「あっ、なるほど」と思った事柄を忘れてしまうので」

***時間配分と出席については……**

「少し早く終わって質問の時間をとればどうでしょう」

「授業時間の最後に質問時間を作って欲しい (退室可な)」

「もう少し時間内に終わるようにペース配分をしてほしい」

「自分としては、毎回出席をとってくれた方が、やる気が出ます」

「出席をとらない方が逆に出席するので (私の場合)、出席をとってなくてよかったです」

問7 「あなたがこの授業を通して得られていると思うことは何ですか。次の3つの項目ごとに、それぞれ簡潔に書いてください。(自由記述)

(1) 事前の期待通りに得られていること

(2) 事前に期待したのに得られていないこと

(3) 授業前に期待しなかったが結果として得られていること」の回答は次の通り。

まず、当該授業を通して「期待通りに得られていること」では、授業が提供する知見や知的刺激、専門領域の内容理解、専門領域の現状理解、専門領域における見方や考え方、系選

択の参考情報、その他があげられている。

*** 授業が提供する知見や知的刺激**

「おもしろい授業で、眠気があまりない」

「授業だけで完結しないような授業（物事の見方、が変わるような授業）であってほしい、と思っていたら、期待通りだった」

「新しい見方・知識を知る」

「自分の問題意識を深めること」

「幅広いものの見方」

「今まで気づけなかった視点、ハイレベルな論理」

「興味深い視点・着眼点を知ることができる」

「自分の視野が広がったこと」

「関心のある内容に関する知見が得られていること」

「全て。他学部から聴講しに来ているので、授業内容は非常に新鮮で面白く感じます」

*** 専門領域の内容理解**

「当該分野についての一般的知識」

「全般的理解」

「当該専門分野（各学問分野）の基礎知識」

「当該分野についての基礎知識および応用知識」

「専門的かつ最新の知識や様々な考え方」

「各パラダイムについての専門的知識」

*** 専門領域の現状理解**

「当該分野に対する認識を深めることができている」

「教員の体験談や思っていることを聞いた」

「実際に現場に関わっている人の話」

*** 専門領域における見方や考え方**

「当該領域における深い知識や洞察」

「専門領域の体系的把握、専門的な内容そのものよりも、それらの事がらをどのようにとらえ理解したらよいかということ」

「知識が深まった。自主学習の指針が定まりやすくなった」

*** 系選択の参考情報 「教育学部が育成したい人材や、この学部で学べる領域についての知識」**

「「教育学部」が専門とする内容の講義」

「現教、相関、心理の3系統で例えばどのような学習ができるかという情報」

「専門的な知識。心理・現教・相関それぞれの雰囲気などをつかむこと」

*** その他**

「シラバスにのっているテーマに沿った話を聞くことができていること」

「教員免許の取得（単位がもらえればそれでよい）」

「出席点」

次に、「事前に期待したのに得られていないこと」の記述は、当該専門領域に関わること、自分の興味関心と関わること、教育学・教育一般に関わること、他領域との関連や教育と心理との関連によること、教師との相互的な関係性によること、などに分けられる。

***当該専門領域について得られていないのは……**

「当該領域の体系的な知識」

「基本事項のもう少し詳しい説明」

「もっと詳しい知識をふやすこと」

「学問的立場から見る専門領域の評価」

「当該専門領域のおもしろさ」

「当該領域の中心的な方法論」

「実際にそのような研究がどう活かされているのか？ということも知りたい」

***自分の興味関心との関わりで得られていないのは……**

「興味・関心が深まること（がなかった）」

「自分が興味を持っている分野がどこに属するのがまだあまりよくわからない」

「自分の研究テーマとなるような課題や問題意識」

「将来の展望となる情報」

「大学院に向かうための知識（授業内容に含まれているとは思いますが）」

***教育学・教育一般に関わって得られていないのは……**

「教育学的視点」

「教育一般についての実践的な知識」

「現場に関する知識・具体性の高い取り組みについての情報」

「事例紹介」

***他領域との関連、教育と心理との関連で得られていないのは……**

「他領域との関連についての話がまだあまり出てこない」

「「教育」に心理学的視点をもって、どう関わっていくか」

「心理学と教育との関連事項」

「授業で話されていることどうしのつながりが体系的に見えづらいことがある」

「もっと広い範囲の知識を」

「幅広い知識は身につけていない」

***教師との相互的な関係性で得られていないのは……**

「教員との接触」

「講義以外の活動」

「レポートのフィードバック」

最後に、「授業前に期待しなかったのに結果として得られていること」について尋ねた。回答は、自分自身の変化や成長に関わること、授業に関わること、当該領域への興味や姿勢に関わること、当該領域の知識や考え方に関わること、教員に関わること、などであった。

***自分自身の変化や成長に関わって……**

- 「自己でみずから考えること」(ができた)
- 「自分の問題意識をより深められ、違った視点から見る事ができている」
- 「今までに考えつづけてきた問への答えのヒントが得られた気がします」
- 「講師の先生の考え方で、自分の視野が広がった」
- 「レポートを書くことで授業のフィードバックができ、学習したことを振り返ることもできる」
- 「今まで自分が全く興味を持たなかったことがレポートを書くために本を読んだりしたことにより、知識となった」
- 「自分が今まで興味を持っていなかった分野に関しても、新しい発見があり、興味を持てた」
- 「恐らく難しい思考の訓練ができている」
- 「忍耐力」「我慢強さ」「別視点」

***授業に関わって……**

- 「話が分かりやすいので、講義がおもしろい」
- 「授業の面白さ (がわかった)」
- 「教員の提示したテーマは、授業がなければ考えなかったことであり、考えてみると、非常に興味深いテーマであると思った」
- 「各系に対する興味 (がもてた)」

***当該領域への興味や姿勢に関わって……**

- 「当該分野のおもしろさ」(がわかった)
- 「当該分野に興味をもった」
- 「当該分野に携わる人の心がまえ、気持ち」(に触れることができた)(授業の内容については、事前に予測はしていなかったもので、) 授業内容全体。
- 「当該分野に携わろうと思うなら今から気をつけていなければならないことについて」

***当該領域についての知識や考え方に関わって……**

- 「机上の話にとどまらない、現実的な問題に関する理解」
- 「具体的な研究などの詳細」 *教員に関わって……
- 「教員自身の研究テーマを知ることができた」
- 「学問を究める姿勢」
- 「それぞれの教授の考え方」
- 「教師のパーソナリティー」

「先生の、興味深い雑談」

*その他

「受講者同士の交流」

§3.4 第3部について

第3部は、問8「この演習について担当教員に特に伝えたいことはありますか？ありましたら、書いてください。」、問9「(自由設問) [この演習の担当教員(授業担当者)が設定した質問にお答えください。質問がない場合もあります。]」からなっている。この回答については授業担当者に直接フィードバックした。

§3.5 まとめ

今回の授業アンケートの結果について簡単にまとめたい。

まず今回の調査結果も、前々回・前回と同様、予想していた以上に学生の授業への満足度は高い結果がでた。「得たものがある」の設問に対しても高い肯定的評価を得た。学生の評価が安定して高いことも示している。ただ「役に立った」の設問での評価がやや低いことは気になるところである。前々回・前回の調査では、半数を占めていた大学院生にとって研究に役立つという意味は明確だが、今回の調査で90%を占める学部生にとって「役に立った」という評価の意味を考えてみる必要があるだろう。回生の違いや学部の違い、あるいは教員免許・社会教育主事・司書資格などとの関係など詳細な区分による分析が必要だろう。

	2005年度	2006年度	2007年度
「満足している」	80.5%	87.1%	85.9%
「得たものがある」	93.1%	95.8%	89.5%
「役に立った」	87.5%	91.9%	69.2%

(1回生は含まれていない)

これまでの回収率の低さから、アンケートに答えなかった学生の評価がそれほど高くないのではないかと危惧された。しかし、評価対象の授業がそれぞれ異なるので厳密な意味ではいえないにしても、今回の調査で、アンケート回答用紙Aの回収率がほぼ100%に近いところで、これまでと同様の結果が出たことから、すくなくとも授業に出席している学生にとっての授業への評価は安定して高いことがわかった。

また、教育学部の文系と理系の入試形態の異なる学生の違いについては、そのサンプル数が少ないのと、調査した授業数もリレー式の授業1つなので、ここから正確なことをいうのは困難ではあるが、これからも継続的に追跡調査をしていく必要があるだろう。また学部として理系入試の学生のニーズと関心に応じたカリキュラムを用意していく必要もあるように思われる。

質的な調査結果については、前の調査でもそうであったが、個々の授業によって異なるので、このように一括してまとめてしまうこと自体に問題がないわけではないが、それでもこ

の記述のなかから学生が感じている授業の問題点を読み取ることができる。例えば、この授業ではどの程度達成できているかを問うた問4に対して、「あまり達成できていない」「ほとんど達成できていない」と回答した人の回答例を見ていると、教員の授業の仕方の問題を見ているものは少なく、むしろ自分の側の問題として捉えているものが多い。これは前回の調査で、否定的な評価の記述を分析したときと同様の調査結果といえる。

■ 4. 「学生による授業アンケート」の結果を受けて

§ 4.1 「学生による授業アンケート」の問題点と改善の方向

前回の調査では回収率が正確にでないで、前々回問題となった「回収率の悪さ」(前々回の回収率は57.9%)について議論することができない。ただ前回の調査で回収率の悪さが改善されたようには見えない。そこで今回は回答用紙をAとBの2枚に分けることで、この問題を解決しようとした。その結果、回収率は大きく向上した。

残された問題点は次の通り。これは前回の報告書で述べたことであるが、今回にも妥当するのでそのままあげておくことにする。

①学生の「授業アンケート」への関心を高めるために、今回のアンケート実施にあたり、各授業担当者から前回の調査結果が本研究科のホームページに掲載されていることを学生に伝えてもらうようにしたが、学生への調査結果のフィードバックがまだ不十分であるようだ。学生により広く調査結果を伝えるだけでなく、その調査結果が具体的に授業改善に結びついていくプロセスを示す必要もあるだろう。

②このアンケートは、研究科全体の授業のあり方を教員と学生が反省するための材料としては適切なものであったといえる。また次年度の授業の改善にはある程度役立つだろう。しかし、アンケート結果の回収から結果報告までの期間がかかりすぎて、そのため直接的に授業自体の改善には結びつきにくい。個々の授業についての改善をその開講している期間に実現するためには十分ではない。その授業自体の改善のためには、より簡便なアンケートを各自で実施し、授業の改善を図る必要があるだろう。

ところで、本研究科では、これまで「魅力ある大学院教育」イニシアティブ(平成17～18年度)「理論・実践融合型による教育学の研究者養成」、21世紀COE(文学研究科拠点:平成14～18年度)「心の働きの総合的研究教育拠点」につづいて、さらに19年度から学生の教育の質の向上を高めるために、次の3つのプロジェクトが進んでいる。1)特別教育研究経費(教育改革:平成19～23年度)「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」、2)グローバルCOEプログラム(教育学研究科拠点:平成19～23年度)「心が活きる教育のための国際的拠点」、3)大学院教育改革支援プログラム(大学院GP:平成19～21年度)「臨床の知を創出する質的に高度な人材養成(京大型臨床の知創出プログラム)」。これらのプロジェクトでは、大学院生が中心になって授業を構築する大学院コロキウムの支援を行っている。この授業の学生による評価を行う必要があるだろう。

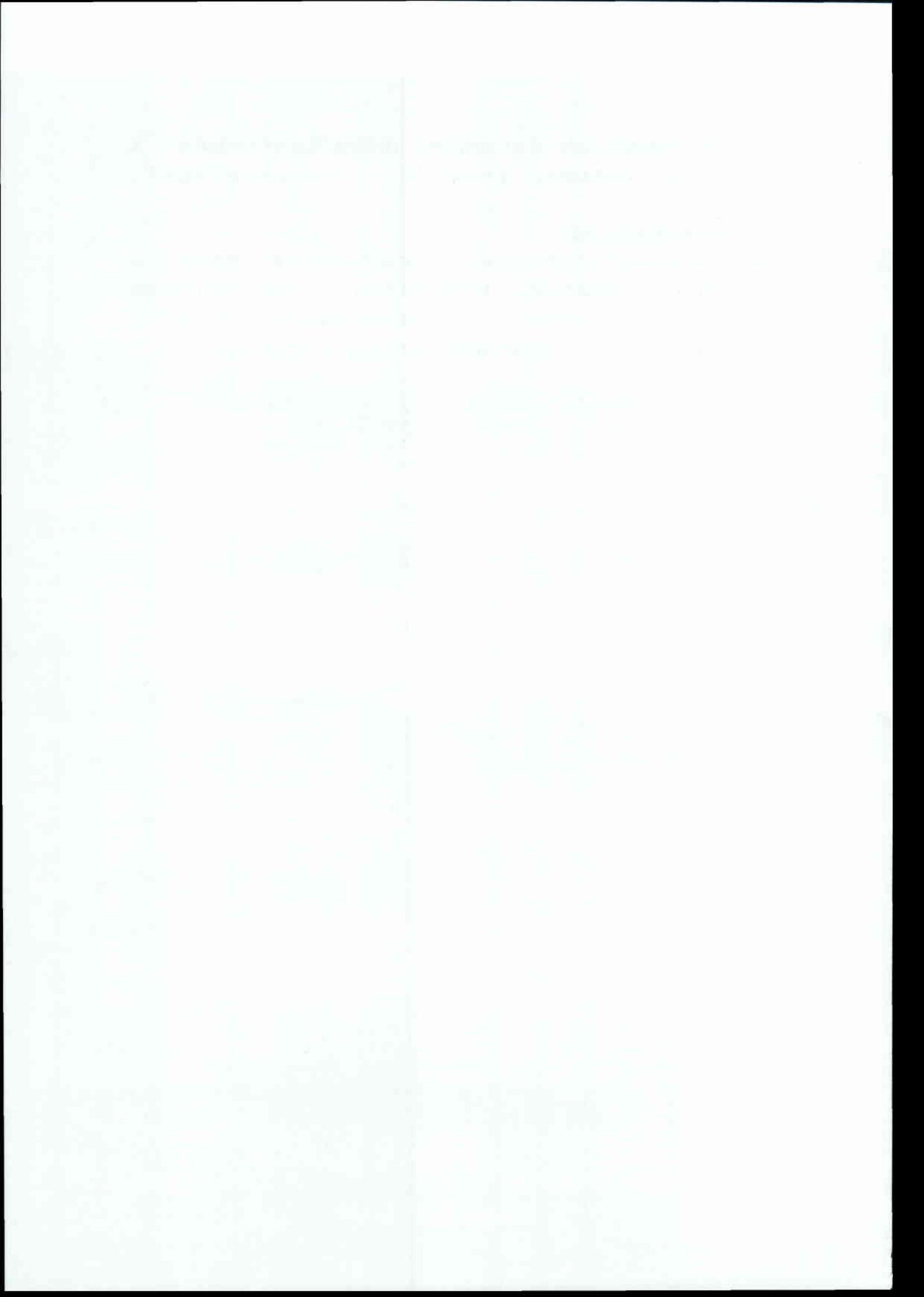
§ 4.2 評価結果のまとめ方と公表の仕方

報告書では評価結果は個別授業ごとには集計せず、本学部・研究科の授業全体を捉えることができるようにした。各授業単位での評価結果は、希望する授業担当者にフィードバックする。また学生・院生からの授業担当者への希望に関する項目についての記述は、すべての授業担当者にフィードバックする。報告書は他大学の教育学部あるいはそれに関係深い学部、

および京都大学の他部局・学部・研究科の自己評価・自己点検に関わる教員に配布する。また学生の希望者にも報告書を配布し、また本研究科のホームページに結果の概要を掲載する。

§ 4.3 報告書の利用法と評価

報告書の作成のあとに、この報告書をもとにしてFDのための会を開き、授業の改善に向けて本研究科メンバーの意識を高める。また各授業担当者は、自らの授業への学生の評価をもとに授業を改善する。さらに授業によっては、本報告書を研究の題材として取りあげ学生・院生とともに今回のアンケートの問題点や改善点などを議論することも予定されている。



資料

学生による授業アンケート（2007年度）－質問用紙－

京都大学大学院教育学研究科・教育学部

この授業アンケートは、授業をより充実したものにすることを目的として実施するものです。授業を担当する先生やあなたを評価する目的で実施するものではありません。自分自身の授業への関わり方・授業のあり方などを振り返って記入してください。無記名で回答するようになっていますので、みなさんの率直な意見を聞かせてください。このアンケート結果が成績などに反映されることはありません。

みなさんが書いてくださった結果については、フィードバックの機会を設ける予定です(昨年の授業アンケートの結果は教育学研究科のホームページで見ることができます)。また、得られた結果を上記の目的以外に使用することはありません。ただ、報告書などに個人が特定されない形で掲載される場合があります。

調査の対象となるのは、この授業です。

選択肢のある質問については、当てはまるものを選び、回答用紙（別紙のマークシート）の該当箇所の○を塗りつぶしてください。また、あなたの意見を求める質問については、回答用紙の該当箇所の空欄に直接記述してください。

回答用紙（マークシート）の記入方法：

1. マークは必ずHBの黒鉛筆で正確にできるだけ濃く塗りつぶしてください。
2. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
3. 記入シートを汚したり、折り曲げたりしないでください。

■ 回答用紙 A に記入します

問0. まずあなた自身についてお聞きします。あなたの所属・回生・性別について回答用紙 A の該当箇所の○を塗りつぶしてください。教育学部1回生の方は、入学試験を文系で受けたか理系で受けたかについて、該当箇所の○を塗りつぶしてください。

問1. この授業についてどのように思いましたか？「満足している」「得たものがある」「役に立った」のそれぞれの項目に対してどの程度当てはまるか、回答用紙 A の該当箇所の○を塗りつぶしてください。

問2. この授業を受けてみてどう思いましたか？回答用紙 A の選択肢から当てはまるものを全て選び、その○を塗りつぶしてください。（いくつでもかまいません）

問3. あなたがこの授業に期待するのはどんなことですか？「最も」当てはまるものと、「次に」当てはまるものを以下から選び回答用紙 A の該当箇所の○を塗りつぶしてください。

- a. 当該領域の全般的な知識や理解を深められること
- b. 当該領域で必要とされる方法論を身につけられること
- c. 当該領域に関わる自分の問題意識を磨けること
- d. 当該領域の主要な論点や最新動向に触れられること
- e. 当該領域の様々な議論や課題について、多面的な考察ができること

- f. 自分の問題意識やテーマが当該領域の中でどんな位置づけや意味をもっているかを検討できること
- g. その他 ()

問4. 問3で選んだことがらについて次の問いに答えてください。

- (1) 問3で選んだことがらは、この授業ではどの程度達成できていますか？回答用紙Aの該当箇所の○を塗りつぶしてください。
- (2) 上記のように思う理由について詳しくお書きください。(回答用紙Aに自由記述)
- (3) (1)で「あまり達成できていない」「まったく達成できていない」と答えた方は、どのようにしたら、それらが達成できるようになると思いますか？(回答用紙Aに自由記述)

■ここからは回答用紙Bにお答えください

問0. まずあなた自身についてお聞きします。あなたの所属・回生・性別について回答用紙Bの該当箇所の○を塗りつぶしてください。教育学部1回生の方は、入学試験を文系で受けたか理系で受けたかについて、該当箇所の○を塗りつぶしてください。

問5. あなたがこの授業を受ける中で、心がけていることや気をつけていることはどんなことですか？(最も当てはまるものを3つまで選び回答用紙Bの該当箇所の○を塗りつぶしてください。)

- a. 毎回、欠かさず出席するようにしている。
- b. 毎回、能動的に授業に臨むようにしている。
- c. 授業以外でも、自主的に勉強するようにしている。
- d. 自分の問題意識と照らし合わせて授業内容を理解しようと努めている。
- e. 積極的に発言し、教員に質問するように心がけている。
- f. 時間内に、自分の疑問点やわからないところをそのままにしない。
- g. 集中して授業を聴くようにしている。
- h. その他 ()

問6. 問5で挙げたことに取り組もうとするとときに、授業のやりかたや時間の使い方などが今とは違っていればよいと考えることがありますか？工夫・改善した方がよいと思える点について書いてください。(回答用紙Bに自由記述)

問7. あなたがこの授業を通して得られていると思うことは何ですか。次の3つの項目ごとに、それぞれ簡潔に書いてください。(回答用紙Bに自由記述)

- (1) 事前の期待通りに得られていること
- (2) 事前に期待したのに得られていないこと
- (3) 授業前に期待しなかったが結果として得られていること

問8. この授業について担当教員に特に伝えたいことはありますか？ありましたら、書いてください。(回答用紙Bに自由記述)

問9. (自由設問) [この授業の担当教員(授業担当者)が設定した質問にお答えください。質問がない場合もあります。] (自由設問)

2007年度 学生による授業アンケート ー 回答用紙 ① ー

問0	所属 (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> 総合人間	<input type="radio"/> 文	<input type="radio"/> 教育	<input type="radio"/> 法	<input type="radio"/> 経済
		<input type="radio"/> 理	<input type="radio"/> 医	<input type="radio"/> 薬	<input type="radio"/> 工	<input type="radio"/> 農
		<input type="radio"/> その他 ()				
	回生 (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> 1回生 (文系)	<input type="radio"/> 1回生 (理系)	<input type="radio"/> 2回生	<input type="radio"/> 3回生	<input type="radio"/> 4回生
		<input type="radio"/> 5回生以上	<input type="radio"/> 修士	<input type="radio"/> 博士	<input type="radio"/> 聴講生・科目等履修生	<input type="radio"/> その他 ()
	性別 (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> 男	<input type="radio"/> 女			

問1	この授業について、	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
	満足している (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/>				
	得たものがある (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/>				
	役に立った (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/>				

問2	右記の選択肢から	<input type="radio"/> おもしろかった	<input type="radio"/> つまらなかった	<input type="radio"/> 考えさせられた	<input type="radio"/> むずかしかった	<input type="radio"/> 考えが深まった
	当てはまるものを全て選んで下さい	<input type="radio"/> 負担が大きかった	<input type="radio"/> 認識が変わった	<input type="radio"/> たいくつだった	<input type="radio"/> 自分の興味にあっていた	<input type="radio"/> ありきたりだった
	(○をいくつでも)	<input type="radio"/> 視野が開けた	<input type="radio"/> なじめなかった	<input type="radio"/> 熱意が伝わった	<input type="radio"/> ついていけないかった	<input type="radio"/> 惹かれたものがある

問3	「最も」当てはまるもの (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
		<input type="radio"/> f	<input type="radio"/> g. その他 ()			
	「次に」当てはまるもの (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> a	<input type="radio"/> b	<input type="radio"/> c	<input type="radio"/> d	<input type="radio"/> e
		<input type="radio"/> f	<input type="radio"/> g. その他 ()			

問4-(1)	問3で選んだことからの達成度 (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> 達成できている	<input type="radio"/> まあまあ達成できている	<input type="radio"/> あまり達成できていない	<input type="radio"/> まったく達成できていない
--------	------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------

問4-(2)	問4-(1)の理由について詳細に記述 (自由記述)	
--------	------------------------------	--

問4-(3)	問4-(1)で 「あまり達成できていない」 「まったく達成できていない」 と答えた場合のみ記述 (自由記述)	
--------	---	--

問0	所属 (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> 総合人間 <input type="radio"/> 理 <input type="radio"/> その他 ()	<input type="radio"/> 文 <input type="radio"/> 医 <input type="radio"/> その他 ()	<input type="radio"/> 教育 <input type="radio"/> 薬	<input type="radio"/> 法 <input type="radio"/> 工	<input type="radio"/> 経済 <input type="radio"/> 農
	回生 (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> 1回生 (文系) <input type="radio"/> 5回生以上	<input type="radio"/> 1回生 (理系) <input type="radio"/> 修士	<input type="radio"/> 2回生 <input type="radio"/> 博士	<input type="radio"/> 3回生 <input type="radio"/> 聴講生・科目等履修生	<input type="radio"/> 4回生 <input type="radio"/> その他 ()
	性別 (○を一つだけ選択)	<input type="radio"/> 男	<input type="radio"/> 女			

問5	心がけていること (○を三つまで選択)	<input type="radio"/> a <input type="radio"/> f	<input type="radio"/> b <input type="radio"/> g	<input type="radio"/> c <input type="radio"/> h その他 ()	<input type="radio"/> d <input type="radio"/> e
----	------------------------	--	--	--	--

問6	問5のことがらに取り組み際に工夫・改善した方が良いと思うこと (自由記述)	
----	--	--

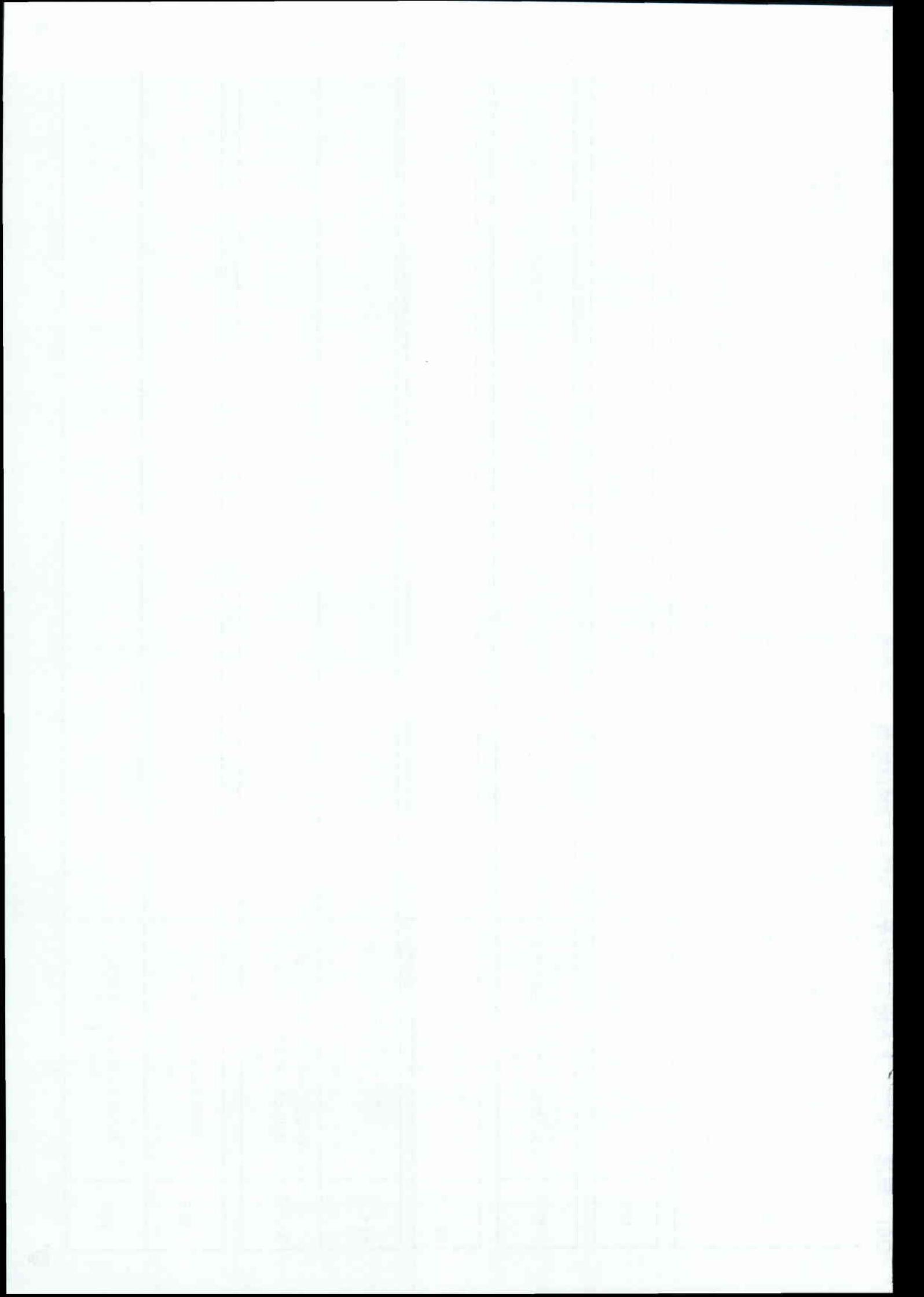
問7-(1)	事前の期待通りに得られていること (自由記述)	
--------	----------------------------	--

問7-(2)	事前に期待しないに得られていないこと (自由記述)	
--------	------------------------------	--

問7-(3)	授業前に期待していなかったが結果として得られていること (自由記述)	
--------	---------------------------------------	--

問8	担当教員に特に伝えたいこと (自由記述)	
----	-------------------------	--

問9	担当教員が設定した自由設問 (自由記述)	
----	-------------------------	--



■ 編集後記

今回の学生による授業評価も、昨年の自己点検・評価委員会のメンバーである矢野智司・桑原知子・渡邊洋子の3名が引き続き担当した。これで3年間、同じメンバーで自己点検・評価委員会を続けていることになる。自己点検・評価委員会のメンバーになることで評価への関心が深まることを考えるなら、メンバーを他の教員と入れ換えることもFDと同様の教育的意義があるにちがいない。多くの教員がこのような経験を重ねることで、教育学研究科全体の授業改善への取り組みはますます深まるだろう。というわけで、来年度からは別のメンバーで学生の授業評価がなされることになる。新しいメンバーによる授業評価に大いに期待したい。

今回もアンケート用紙の作成では中池竜一助教に、アンケートの集計では同助教と川部哲也助教の協力を得た。感謝したい。

最後になるが、多数の学生・院生が積極的にこの調査に参加してくれたこと、また教員が大切な授業時間をつかってこの調査のために全面的に協力してくれたことに対して深甚の感謝をしたい。

(矢野智司)

